

物品購入等仕様書

発注局課	脳卒中・神経脊椎センター総務課	担当者	新垣		
		電話番号	753-2615		
納入期限	令和7年3月31日	部分払	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する		
納入場所	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター				
分類番号	品名	メーカー・型番	数量	単価（円）	
	医用画像管理システム及び周辺機器等		一式		
	【構成内容や仕様条件については、医用画像管理システム及び周辺機器等一式調達仕様書（別紙）を参照のこと】 ※契約約款は横浜市契約約款を適用する。なお、「市長」は「病院事業管理者」、「横浜市契約規則」は「医療局病院経営本部契約規程」と読み替えるものとする。				

医用画像管理システム及び周辺機器等一式調達仕様書

前提条件	
1	入札機器は、入札時点で製品化されていること。
2	医療機器は、入札時点で薬事承認されていること。
3	機器の導入及び設置工事については、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター（以下「当院」いう。）と十分に協議し、またその指示に従うこと。
4	搬入、据付、配線、設置工事、調整、既存装置の撤去などを導入経費に含むこと。
5	日本語の使用説明書があること。
6	今回の仕様で導入するシステムにおいて、保守管理は一元管理できること。
7	ソフトウェアは最新のバージョンで納入し、医用画像管理システムの保守契約を前提にバージョンアップし続けることができるものであること。
8	仕様書に記載されている機能、装置は、全て当院が指示したシステム開始日までに稼働状態にあるよう、整備、点検、事前試験を実施すること。
9	システム稼働日までに事前の講習ができるようにすること。また、内容は当院担当者と協議すること。
10	サーバー再起動時を除いて、24時間365日ノンストップ稼働できること。また、ハードディスクのRAID構築など冗長構成をとり、メンテナンスができること。
11	本システムの納入期限は、令和7年3月31日とする。
システム全体の基本要件	
1	電子保存の三原則における「真正性」と当院の診療記録管理要綱に基づき、診断に用いた確定画像が改ざんされることなく読み出せること。また、個人情報保護とセキュリティの確保を目的とし、厚生労働省の定める「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版（令和5年5月）」に準拠した機能を有すること。
2	電子保存の三原則における「保存性」に基づき、運用必要相当分のオリジナル画像データを安定的に保存すること。
3	電子保存の三原則における「見読性」に基づき、DICOM3.0に対応したさまざまな画像表示装置にて、画像保存装置内の画像表示ができること。また、モニターの劣化が読影・診断の妨げとならないために、DICOM3.0 Part14に基づき定期的にこれらを測定・補正・管理し、フィルムと同等の見え方を維持する機能を有すること。

詳細な必要要件		
1	フィルムレスシステムサーバー（ストレージ含む）	
	1-1	医用画像管理システム（以下「PACS」という。）サーバー
		データベースサーバー仕様（数量：1）
	1-1-1	CPUは、Xeon E-2334（3.4GHz 4C8T）相当以上であること。

	1-1-2	メモリは、64GB (16GB×4) 相当以上であること。
	1-1-3	OSは、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-1-4	HDDは、1.2TB (SAS2.5inch) x7、RAID5+HS 構成相当以上であること。
	DICOM サーバー仕様 (数量: 1)	
	1-1-5	CPUは、Xeon E-2334 (3.4GHz 4C8T) 相当以上であること。
	1-1-6	メモリは、8GB (8GB×1) 相当以上であること。
	1-1-7	OSは、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-1-8	HDDは、600GB (SAS2.5inch) x4、RAID5+HS 構成相当以上であること。
	ストレージサーバー仕様 (数量: 1)	
	1-1-9	CPUは、Xeon Silver 4208 (2.1GHz 8C16T) 相当以上であること。
	1-1-10	メモリは、8GB (8GB×1) 相当以上であること。
	1-1-11	OSは、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-1-12	HDDは、16TB (SAS3.5inch) x11、RAID6+HS 構成相当以上で、実行保存容量が100TB以上であること。
	バックアップサーバー仕様 (数量: 1)	
	1-1-13	CPUは、Xeon E-2334 (3.4GHz 4C8T) 相当以上であること。
	1-1-14	メモリは、24GB (8GB×3) 相当以上であること。
	1-1-15	OSは、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-1-16	HDDは、1.2TB (SAS2.5inch) x5、RAID5+HS 構成相当以上であること。
	ビューワーサービスサーバー仕様 (数量: 1)	
	1-1-17	CPUは、Xeon Silver 4208 (2.1GHz 8C16T) 相当以上であること。
	1-1-18	メモリは、48GB (16GB×3) 相当以上であること。
	1-1-19	OSは、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-1-20	HDDは、600GB (SAS2.5inch) x4、RAID5+HS 構成相当以上であること。
	サーバー仕様その他	
	1-1-21	画像サーバーは、院内で発生する DICOM オリジナル画像データ (可逆圧縮画像データ) を既存 PACS から移行した画像も含め新システム稼働から約7年間分、ストレージ上でオンライン管理できる機能を有すること。
	1-1-22	全サーバーの総電源容量を確保できる無停電電源装置を備え、停電時に約5分以上電源供給ができること。また、本無停電電源装置は停電を通知するアラーム機能を有し、かつ、停電した旨をサーバーに通知してオートシャットダウンができること。
	1-1-23	各ユニットが当院指定の「19 インチラック」に格納されること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	1-1-24	本サーバー格納ラック内には、全体制御用の液晶モニターを1面以上有すること。

	1-1-25	当院指定のウイルス対策ソフトウェアを導入すること。ウイルス対策ソフトウェアは当院電子カルテシステムから自動で更新データを取得して、システム全体が常に最新のウイルス定義にてウイルス対策がなされること。不可能な場合は、ユーザーに意識させずに適時最新状態に更新されるウイルス対策機能を提供すること。
	1-1-26	全サーバーの時間表示については、電子カルテシステムの時間と同期していること。
1-2	画像診断所見入力システム（以下「レポートシステム」という。）サーバー	
	1-2-1	レポートサーバー 1 台・クライアント 4 台で構成され、当院が指定する場所に設置すること。
	1-2-2	CPU は、Xeon Silver 4208 (2.1GHz 8C16T) 相当以上であること。
	1-2-3	メモリは、48GB (16GB×3) 相当以上であること。
	1-2-4	OS は、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-2-5	HDD は、600GB (SAS2.5inch、3.5inch 変換キャリア搭載) x 4、RAID5 +HS 構成相当以上であること。
	1-2-6	モニターの解像度は、SXGA 以上であること。
	1-2-7	全サーバーの総電源容量を確保できる無停電電源装置を備え、停電時に約 5 分以上電源供給ができること。また、本無停電電源装置は停電を通知するアラーム機能を有し、かつ、停電した旨をサーバーに通知してオートシャットダウンができること。
	1-2-8	各ユニットが当院指定の「19 インチラック」に格納されること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	1-2-9	初期のストレージの全容量では、保存・管理の必要な「画像情報」及び「レポート情報」を既存システムから移行した情報を含め新システム稼働から約 7 年間分保存可能なものとする。
	1-2-10	当院指定のウイルス対策ソフトウェアを導入すること。ウイルス対策ソフトウェアは当院電子カルテシステムから自動で更新データを取得して、システム全体が常に最新のウイルス定義にてウイルス対策がなされること。不可能な場合は、ユーザーに意識させずに適時最新状態に更新されるウイルス対策機能を提供すること。
	1-2-11	サーバー及びクライアント端末の時間表示については、電子カルテシステムの時間と同期していること。
1-3	放射線情報システム（以下「RIS」という。）サーバー	
	1-3-1	RIS サーバー 1 台、クライアント 24 台で構成され、当院が指定する場所に設置すること。
	1-3-2	CPU は、Xeon Silver 4208 (2.1GHz 8C16T) 相当以上であること。
	1-3-3	メモリは、32GB (8GB×4) 相当以上であること。
	1-3-4	OS は、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-3-5	HDD は、1.2TB (SAS2.5inch、3.5inch 変換キャリア搭載) × 6、RAID5 +HS 構成相当以上であること。

	1-3-6	モニターの解像度は、SXGA 以上であること。
	1-3-7	全サーバーの総電源容量を確保できる無停電電源装置を備え、停電時に約5分以上電源供給ができること。また、本無停電電源装置は停電を通知するアラーム機能を有し、かつ、停電した旨をサーバーに通知してオートシャットダウンができること。
	1-3-8	各ユニットが当院指定の「19 インチラック」に格納されること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	1-3-9	当院指定のウイルス対策ソフトウェアを導入すること。ウイルス対策ソフトウェアは当院電子カルテシステムから自動で更新データを取得して、システム全体が常に最新のウイルス定義にてウイルス対策がなされること。不可能な場合は、ユーザーに意識させずに適時最新状態に更新されるウイルス対策機能を提供すること。
	1-3-10	サーバー及びクライアント端末の時間表示については、電子カルテシステムの時間と同期していること。
1-4		サーバークライアント型3D画像解析システム（以下「3D画像解析システム」という。）サーバー
	1-4-1	サーバークライアント型の3D解析システムを新規に構築すること。
	1-4-2	同時アクセス数は、10台以上を提供すること。
	1-4-3	CPUは、Xeon Silver 4208 (2.1GHz 8C16T) × 2相当以上であること。
	1-4-4	メモリは、128GB (32GB × 4) 相当以上であること。
	1-4-5	OSは、Windows Server IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-4-6	HDDは、2.4TB (SAS2.5inch) × 4、RAID5構成相当以上で実行保存容量が8TB以上であること。
	1-4-7	シンクデータについては、任意の期間保存後に自動消去できること。期間など詳細については、当院担当者と別途協議のこと。
	1-4-8	全サーバーの総電源容量を確保できる無停電電源装置を備え、停電時に約5分以上電源供給ができること。また、本無停電電源装置は停電を通知するアラーム機能を有し、かつ、停電した旨をサーバーに通知してオートシャットダウンができること。
	1-4-9	各ユニットが当院指定の「19 インチラック」に格納されること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	1-4-10	当院指定のウイルス対策ソフトウェアを導入すること。ウイルス対策ソフトウェアは当院電子カルテシステムから自動で更新データを取得して、システム全体が常に最新のウイルス定義にてウイルス対策がなされること。不可能な場合は、ユーザーに意識させずに適時最新状態に更新されるウイルス対策機能を提供すること。
	1-4-11	サーバー及びクライアント端末の時間表示については、電子カルテシステムの時間と同期していること。
1-5		遠隔画像参照システム

	1-5-1	システムは、クライアント端末の同時アクセスが5台以上可能なように構成すること。また、当院が指定する場所に設置すること。院外から院内 PACS の画像を安全に参照できるシステムを提供すること。
	1-5-2	CPU は、Xeon E-2334 (3.4GHz 4C8T) 相当以上であること。
	1-5-3	メモリは、16GB (8GB×2) 相当以上であること。
	1-5-4	OS は、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-5-5	HDD は、600GB (SAS2.5inch) × 5、RAID 5 +HS 構成相当以上で実行保存容量が 0.9TB 以上であること。
	1-5-6	モニターの解像度は、SXGA 以上であること。
	1-5-7	全サーバーの総電源容量を確保できる無停電電源装置を備え、停電時に約5分以上電源供給ができること。また、本無停電電源装置は停電を通知するアラーム機能を有し、かつ、停電した旨をサーバーに通知してオートシャットダウンができること。
	1-5-8	各ユニットが当院指定の「19 インチラック」に格納されること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	1-5-9	当院指定のウイルス対策ソフトウェアを導入すること。ウイルス対策ソフトウェアは当院電子カルテシステムから自動で更新データを取得して、システム全体が常に最新のウイルス定義にてウイルス対策がなされること。不可能な場合は、ユーザーに意識させずに適時最新状態に更新されるウイルス対策機能を提供すること。
	1-5-10	サーバーの時間表示については、電子カルテシステムの時間と同期していること。
	1-5-11	クライアント端末は、当院で使用中の Xperia (S0G07) Android12 にて動作できること。
	1-5-12	使用中のソフトウェアバージョンと機能に対応した最新の取扱説明書を表示できること。
	1-5-13	使用中のソフトウェアバージョンに対応した薬機法に定められた添付文書を表示できること。
	1-5-14	使用中のソフトウェアバージョンに対応した薬機法に定められた法定内容を表示できること。
	1-5-15	個人情報保護とセキュリティの確保を目的とし、厚生労働省の定める「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版(令和5年5月)」準拠した機能を有すること。また当院の外部からの接続は、常時接続はせず、必要に応じて物理的に接続する機能を有し、電子証明書によるユーザー認証を用いて、許可された端末のみアクセスできるようにすること。なお、電子証明書の発行などにかかる費用については納入業者側の負担で行うこと。
1-6	診療情報統合管理・参照システム	
	データベースサーバー仕様 (数量: 1)	
	1-6-1	CPU は、Xeon Silver 4208 (2.1GHz 8C16T) 相当以上であること。
	1-6-2	メモリは、32GB (8GB×4) 相当以上であること。

	1-6-3	OS は、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-6-4	HDD は、2.4TB (SAS2.5inch) × 8、RAID 5+HS 構成相当以上であること。
	統合 IF サーバー仕様 (数量: 1)	
	1-6-5	CPU は、Xeon E-2334 (3.4GHz 4C8T) 相当以上であること。
	1-6-6	メモリは、16GB (8GB×2) 相当以上であること。
	1-6-7	OS は、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-6-8	HDD は、1.2TB (SAS2.5inch) × 7、RAID 5+HS 構成相当以上であること。
	部門関係 IF サーバー仕様 (数量: 1)	
	1-6-9	CPU は、Xeon E-2334 (3.4GHz 4C8T) 相当以上であること。
	1-6-10	メモリは、16GB (8GB×2) 相当以上であること。
	1-6-11	OS は、WindowsServer IoT 2019 Standard 以上で動作すること。
	1-6-12	HDD は、1.2TB (SAS2.5inch) × 4、RAID 5+HS 構成相当以上であること。

2	フィルムレスシステム専用端末	
	2-1	レポートシステム読影端末
	2-1-1	当院指定の端末で4式用意し、当院が指定する場所に設置すること。端末スペックに調整が必要な場合は納入業者側で対応し、それに伴い発生する費用については納入業者側の負担で行うこと。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	2-1-2	2-1-1の端末にMicrosoft Office Home & Business 2021 (Excel、Word、Power Point) 以上をインストールすること。
	2-1-3	2-1-1の端末のモニターの構成は24インチワイドカラーモニター1面+21インチ以上の2Mカラーモニター4面構成であること(対応グラフィックボード含む)。
	2-1-4	2-1-1の端末における日本語変換に関して、医療用の変換並びに医用辞書ソフトウェアを4式導入すること。併せて、音声入力システムを導入すること。
	2-1-5	各端末はそれぞれ当院指定のプリンターと接続すること。
	2-1-6	エルゴトロン社製マルチモニターアーム又は同等品以上のものを必要数用意し、当院が指定する場所に設置すること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	2-2	PACS 管理端末
	2-2-1	PACS 管理端末を1台用意し、当院が指定する場所に設置すること。
	2-2-2	PACS 管理端末の時間表示については、電子カルテシステムの時間と同期していること。
	2-3	RIS 端末
	2-3-1	新規 RIS 端末を5台用意し、当院が指定する場所に設置すること。

	2-3-2	<p>RIS ライセンスを以下の 24 式に導入し、当院が指定する場所に設置すること。</p> <p>(1) 新規 RIS 端末 5 台 (2) 当院指定の電子カルテ端末 14 台 (3) 新規レポートシステム読影端末 2 台 (4) 既存画像処理ユニット (Console Advance) 2 台及び移動型デジタル X 線撮影装置 (CALNEO AQRO) 1 台</p> <p>上記(4)の装置は RIS ライセンスを付与し、RIS の機能と撮影システムが操作可能であること。付与ができない場合は、RIS 端末をそれぞれ設置すること。 端末スペックに調整が必要な場合は納入業者側で対応し、それに伴い発生する費用については納入業者側の負担で行うこと。詳細については、当院担当者と別途協議すること。</p>
	2-3-3	2-3-1 の端末のモニターの大きさ及び解像度は、当院指定の電子カルテ端末モニターに準ずること。
	2-3-4	2-3-1 の端末には、Microsoft Office Home & Business 2021 (Excel、Word、Power Point) 以上をインストールすること。
	2-3-5	2-3-2 (2) の端末では RIS 及び当院の医療情報システムが全て機能すること。
	2-3-6	各端末はそれぞれ当院指定のプリンターと接続すること。
	2-3-7	既存端末も含め各端末に当院電子カルテシステムで使用するバーコード及び QR コードに対応する読込装置を準備すること。
2-4	検像端末	
	2-4-1	検像端末を新規 2 台用意し、当院が指定する場所に設置すること。
	2-4-2	既存の検像端末を当院が指定する場所に設置すること。
	2-4-3	新規端末は 19 インチ以上の 1M カラーモニター 1 面 + 2M カラーモニター 1 面構成であること。
	2-4-4	接続モダリティについては、別紙のネットワーク構成図に基づき接続すること。
	2-4-5	各端末に当院電子カルテシステムで使用するバーコード及び QR コードに対応する読込装置を準備すること。
2-5	3D 画像解析システム専用端末	
	2-5-1	3D 画像解析システム専用端末を 2 台用意し、当院が指定する場所に設置すること。
	2-5-2	24 インチ以上のカラーモニター 1 面構成で、モニターの解像度は SXGA 以上のものを 2 式用意すること。
	2-5-3	3-4 の項目がストレスなく稼働できるハードウェア構成であること。
2-6	画像入出力端末	
	2-6-1	Array 社製 AOC 7 を 1 式用意し、当院が指定する場所に設置すること。
	2-6-2	OS は Windows 10/11 Professional 以上であること。
	2-6-3	CPU は Intel Core i5-4690K 相当以上であること。

		2-6-4	メモリは 16GB 以上であること。
		2-6-5	Storage 容量は SSD で 500GB 以上であること。
		2-6-6	1 G 以上の Ethernet に対応できること。
		2-6-7	19 型以上の液晶 TFT モニターが付属していること。
		2-6-8	ディスクパブリッシャー (EPSON PP-100III) を 1 台準備し、当院が指定する場所に設置すること。
		2-6-9	ディスクパブリッシャーを制御するための端末を有すること。
		2-6-10	書込用 CD/DVD ドライブは 2 基以上搭載されていること。
		2-6-11	書込ディスクは CD-R、DVD-R、DVD+R、DVD-R DL、DVD+R DL に対応できること。
		2-6-12	CD/DVD の盤面ラベル自動印刷機能を有すること。
		2-6-13	ユーザー認証・管理の機能を有しており、作成記録の履歴が保存できること。
		2-6-14	作成する DICOM Disc の容量により CD/DVD を自動選択する機能を有すること。
		2-6-15	書き込みデータが複数枚にわたる場合の自動分割作成ができること。
		2-6-16	以下の DICOM Element 情報を修正する機能を有すること。 (1) 患者番号 (2) 患者氏名 (3) 生年月日 (4) 性別 (5) 検査日 (6) 検査時刻 (7) 受付番号 (8) 検査 ID (9) 検査記述 (10) モダリティ名
		2-6-17	PDI 形式メディアからの画像読込みは、画像読込み中でも DICOM Element 情報を修正できる機能を有すること。
		2-6-18	施設名称の登録ができること。施設名称は自院を登録するか、持ち込み元をそのまま使用するか、任意に設定ができること。
		2-6-19	送信を行う DICOM データをサーバーの仕様に合わせ最適化を行い、サーバーに再送信ができること。
		2-6-20	オプションとして MP4 や AVI などの一般動画ファイルの DICOM マルチフレーム変換機能を有すること。
		2-6-21	二重取り込みを防止する機能を有すること。
		2-6-22	二重取り込みを防止する機能は、画像サーバーと連携する機能を有すること。
		2-6-23	編集する患者情報を追加したい場合、ユーザーが自由に 3 項目まで TAG 表示させる機能を有すること。

	2-6-24	PACS サーバーとオンラインでデータの送受信ができること。
	2-6-25	既存システムに接続されている環境や接続設定を全て実施すること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。

3	各種サブシステム機能	
	3-1	PACS
		前提条件
	3-1-1	新規 PACS では、既存 PACS で可能であった機能を有すること。有しない場合はそれと同等以上の機能を提供すること。有しない場合は当院担当者へ代案を提案し、協議すること。
	3-1-2	既存 PACS サーバーに接続されている画像診断装置との DICOM Storage 接続設定を実施すること。
	3-1-3	既存 PACS に設定されている各種設定を全て引き継ぎ、新システムに移行できること。
	3-1-4	既存 PACS で管理されている DICOM 画像データや設定情報を含めて稼働までに完全移行すること。移行に関わる費用も含めること。
	3-1-5	当院で稼働中の各種システムとの画像参照連携接続を維持すること。
	3-1-6	画像診断装置から受信した DICOM 画像データを DICOM オリジナル画像（可逆圧縮）で格納・管理できること。
	3-1-7	DICOM Storage SCP、DICOM Storage SCU、DICOM Query/Retrieve SCP、DICOM Print Management SCU をサポートしていること。
	3-1-8	検査画像の受信、検査や患者情報のマージ、患者情報のミスマッチ、リモートシステムからのアクセス、管理者による設定変更、ログオン/ログオフに関するログ情報の管理ができること。
	3-1-9	新規ユーザーの登録・編集・削除、ユーザーグループの登録・編集・削除、ユーザーグループごとに利用できる機能の制限が可能なユーザー管理機能を有すること。
	3-1-10	電子カルテシステムから画像配信用ビューワーアプリケーションの起動連携ができること。
	3-1-11	レポートシステムから画像配信用ビューワーアプリケーションの起動連携ができること。
		管理者端末機能
	3-1-12	PACS 内のデータ修正が可能な専用アプリケーション機能を実装すること。
	3-1-13	管理者権限を有する者のみがログインできるように制御を行うこと。
	3-1-14	管理者用ソフトウェアはネットワーク経由でサーバーにアクセスできること。
		画像配信用ビューワー

		3-1-15	PACS サーバー内に保存されているデータを以下のフォルダに自動的に分類できること。 (1) 本日の検査 (2) 本日の検査：モダリティ別 (3) 最近1週間の検査 (4) 最近1週間の検査：モダリティ別 (5) 全検査 (6) 全患者
		3-1-16	分類された患者や検査をリスト表示できること。
		3-1-17	患者リストには「患者番号」「患者氏名」「性別」「生年月日」を表示できること。
		3-1-18	検査リストには「患者番号」「患者氏名」「検査番号」「モダリティ」「検査項目」「検査日時」「画像枚数」「検査ステータス（予約、到着、レポートあり）」を表示できること。
		3-1-19	リストに表示された検査を各項目でフィルタリング（検索）できること。
		3-1-20	リストに表示された検査を各項目でソート（並べ替え）できること。また、ソートは第3ソートまでできること。
		3-1-21	WEB ブラウザ（URL 指定）を利用して検査リストを表示できること。
		3-1-22	設定したフォルダに新しい検査が追加されたときに通知できること。
		3-1-23	複数の PACS サーバー上の検査をリスト上に表示できること。
		3-1-24	リスト上に検査のサムネイル画像を表示できること。
		3-1-25	ユーザーが直近で表示した検査画像の履歴リストから画像を表示できること。
		3-1-26	リストで選択した検査画像を表示できること。
		3-1-27	検査画像を開く際、モダリティなどの条件により、過去検査画像を同時に表示するかどうかを選択できること。
		3-1-28	過去検査リストから検査情報を表示できること。
		3-1-29	過去検査リストからオーダー情報を表示できること。
		3-1-30	過去検査リストから検査レポートを表示できること。
		3-1-31	ユーザー及びモダリティごとにあらかじめ設定された表示フォーマット（以下、読影プロトコル）に従いシリーズ画像をスタック／タイル表示できること。
		3-1-32	読影プロトコルではシリーズ表示順、シリーズ表示レイアウト、イメージ表示レイアウト、過去検査（最大6検査）、過去シリーズ画像を指定できること。
		3-1-33	読影プロトコルは複数登録でき、検査画像表示後にユーザーが切り替えできること。
		3-1-34	読影プロトコル適用後に表示される画面（以下、プロトコルステップ）が複数にわたる場合、前後及び任意のプロトコルステップに切り替えできること。

	3-1-35	読影プロトコルをユーザーがモダリティごとに設定できること。
	3-1-36	検査画像表示時に患者情報パネル（患者番号、患者名、性別、検査時年齢、検査日、検査項目群、検査番号）を表示できること。
	3-1-37	検査画像表示時に同一患者の過去検査リストを表示できること。
	3-1-38	過去検査リストを各項目でソートできること。
	3-1-39	過去検査リストをモダリティで絞り込みできること。その際、複数のモダリティを指定できること。
	3-1-40	過去検査リストで選択されている検査を現在表示されている検査に追加して比較表示（最大6検査）できること。
	3-1-41	過去検査を現在表示されている検査に追加して比較表示する際、現在検査に施した処理（W/L値、拡大、パンなど）が初期化されないこと。
	3-1-42	検査画像表示時にシリーズ画像のサムネイルバーを表示できること。
	3-1-43	サムネイルバーには過去検査リストで選択されている全ての検査のサムネイルが表示できること。
	3-1-44	サムネイルバーにてシリーズ番号、シリーズ情報、画像枚数を表示できること。
	3-1-45	サムネイルバーにて表示中、表示済、未表示、フォーカスありのシリーズ画像を識別できること。
	3-1-46	過去検査リスト及びサムネイルバーを非表示にできること。
	3-1-47	過去検査リスト及びサムネイルバーを表示するかどうかをユーザー及びモダリティごとに設定できること。
	3-1-48	シリーズ画像の操作により、シリーズをコピー、移動、入れ替え、削除して表示できること。
	3-1-49	マスを塗りつぶす形式にてシリーズの表示レイアウトを変更できること。
	3-1-50	検査に含まれる全ての画像を1シリーズ（全画像シリーズ）として表示できること。
	3-1-51	シリーズ画像内で「前シリーズ」「次シリーズ」「シリーズ一覧」を指定してシリーズを切り替えできること。
	3-1-52	シリーズ内に複数のサブシリーズが含まれる場合、画像向き・間隔及び任意のタグ値を利用して、シリーズを分割して表示できること。
	3-1-53	シリーズ画像に対して、以下の画像操作ができること。 (1) 階調変更、拡大・縮小、移動、ページング、部分拡大（虫めがね） (2) 左右反転、上下反転、左右90度回転、180度回転 (3) 画像フィット表示、ピクセル等倍表示
	3-1-54	CTやMRのシリーズ画像に対して任意角度の左右回転ができること。
	3-1-55	シリーズ画像に対して、以下の画像処理操作ができること。 (1) 階調プリセット処理

			<ul style="list-style-type: none"> (2) 白黒反転処理 (3) シャープネス・肺強調処理 (4) ぼかし処理
		3-1-56	W/L 値の数値入力によりシリーズ画像の階調を変更できること。
		3-1-57	階調プリセットはユーザー及びモダリティごとに最大9個までユーザーが設定できること。
		3-1-58	マウス操作による階調変更時の W/L 値増減方向及び変化速度をユーザーごとに設定できること。
		3-1-59	モノクロ 8bit 画像に対して階調を変更できること。
		3-1-60	RGB 画像に対して明るさ・コントラストを変更できること。
		3-1-61	拡大・縮小率の数値入力によりシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
		3-1-62	拡大・縮小率プリセットを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
		3-1-63	マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小の中心を、ビューの中心又はマウスポイントの中心のいずれかをユーザーごとに設定できること。
		3-1-64	マウスホイールを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
		3-1-65	シリーズ画像をページングするためのスライダーバー機能を利用できること。
		3-1-66	シリーズの最初及び最後の画像へワンアクションで移動できること。
		3-1-67	シリーズ画像をシネ表示（昇順／降順表示、開始、停止、速度調整）できること。
		3-1-68	シリーズ画像をシネ表示する際、シネ操作パネル（ボタンアイコンなど）を使用せずにマウス操作のみで昇順／降順表示、開始、停止、速度調整ができること。
		3-1-69	DICOM フレームレートを考慮して動画画像をシネ表示できること。
		3-1-70	シリーズ画像を任意の DICOM タグを利用してソートできること。
		3-1-71	マウスホイールを利用してイメージ表示レイアウト（タイル表示のレイアウト）を変更できること。
		3-1-72	シリーズ画像をダブルクリックすることで1モニターに対してシリーズ表示レイアウトを1×1表示でき、再度ダブルクリックすることにより1×1表示を解除できること。
		3-1-73	画像の DICOM ヘッダー情報を一覧で表示できること。
		3-1-74	<p>画像上で以下のアノテーションを付加・計測できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 画素値 (2) 距離 (3) 角度 (4) テキスト (5) 矢印 (6) 矢印+テキスト (7) フリーハンド (8) 線分比

			(9) 楕円 ROI (10) 正円 ROI (11) 矩形 ROI (12) 多角形 ROI (13) フリーハンド ROI
		3-1-75	領域の自動認識により距離計測を自動補正できること。
		3-1-76	領域の自動認識によりアノテーション（多角形 ROI）をビューワー画面内で（別画面を起動せずに）付加、計測及び修正できること。
		3-1-77	交わらない2直線の角度を計測できること。
		3-1-78	4点及び6点計測法を用いて、2つの線分の長さ及び比率を計測（心胸隔比計測）できること。
		3-1-79	臓器認識を利用して自動で心胸隔比を計測できること。
		3-1-80	計測途中においても計測値が表示されること。
		3-1-81	アノテーションの計測結果を文字列としてクリップボードにコピーできること。
		3-1-82	ROI アノテーションにおいて「面積」「平均」「標準偏差」「最大値」「最小値」「長径」「外周」「中央値」「長さ」を表示できること。
		3-1-83	ROI アノテーションで表示する項目及び値の小数点以下の桁数をユーザーごとに設定できること。
		3-1-84	シリーズ画像に対して、番号ラベルのアノテーションを付加できること。
		3-1-85	アノテーションを表示／非表示できること。
		3-1-86	アノテーションの色及びフォントサイズをユーザーごとに設定できること。
		3-1-87	保存されたアノテーションの位置をスライダーバー上にマーカー表示し、マーカーをクリックすることでその画像に飛べること。
		3-1-88	保存されたアノテーション、拡大、W/L 変更を全端末で復元できること。
		3-1-89	DICOM ヘッダー情報を画像上にオーバーレイ情報として表示／非表示できること。
		3-1-90	オーバーレイ情報として表示する項目をユーザー、モダリティ及び SOP クラスごとに任意にユーザーが指定できること。
		3-1-91	オーバーレイ情報を匿名化して表示できること。
		3-1-92	画像の表示枠に応じてオーバーレイ情報のフォントサイズが変化すること。
		3-1-93	オーバーレイ情報の色及びフォントサイズを設定できること。
		3-1-94	DICOM6000 番台のオーバーレイ情報を表示できること。
		3-1-95	表示中の画像のリファレンス線を表示／非表示できること。
		3-1-96	リファレンス線に画像番号が表示されること。
		3-1-97	リファレンス線を表示する際に「最初と最後とアクティブ」「アクティブのみ」を選択できること。

		3-1-98	任意の2つのシリーズ画像をフュージョン表示できること。
		3-1-99	フュージョン表示時に上画像のみを移動及びページングできること。
		3-1-100	特殊計測（2等分線、垂線、n等分線、CE角、Sharp角、コブ角、FTA（左）、FTA（右）、外反母趾角、バーマン角、適合角、AHI、AHI（角度））機能を利用できること。
		3-1-101	マウスの右、左、中、左右（両押し）ボタンのそれぞれに画像操作機能を割り当てることのできる。
		3-1-102	画像操作モードの切り替え及び画像操作をキーボードショートカット、アクティブオーバーレイ、右クリックメニューにて実施できること。
		3-1-103	画像操作モードの切り替え及び画像操作をボタンメニュー（ツールボックス）にて実施できること。
		3-1-104	画像の全体又は選択した領域をJpeg、Bitmap、Png、Tiffのいずれかの形式にてクリップボードにコピー又はファイルに出力できること。
		3-1-105	選択したシリーズ画像をJpeg、Bitmap、Png、Tiff形式にてファイルに出力できること。また、出力時に複数の画像を1枚の画像として出力できること。
		3-1-106	シネ表示された画像をAVIファイルに出力できること。
		3-1-107	表示中の画像をDICOMプリントできること。
		3-1-108	フュージョン画像、再構成画像を別シリーズとしてPACS上に保存できる機能を有すること。
		3-1-109	以下のシリーズ画像操作に対してシリーズ間の連携ができること。 (1) ページング (2) 拡大・移動 (3) 階調・画像処理 (4) 虫めがね (5) 回転・反転 (6) 領域選択 (7) タンブリング（回転） (8) レンダリング
		3-1-110	拡大・移動連携時に基準位置をずらして移動操作できること。
		3-1-111	シリーズ間の各連携設定をユーザーごとにON/OFFできること。
		3-1-112	連携するシリーズを任意に選択できること。
		3-1-113	連携するシリーズを同一検査、同一方向の条件にて自動で選択できること。
		3-1-114	ページング連携時にDICOMタグ情報のスライス位置にて自動で同期表示できること。
		3-1-115	ページング連携時にビューワー画面内で（別画面を起動せずに）間引いたスライスによる臓器認識を利用して自動でスライス位置合わせできること。

	3-1-116	ページング連携時にスライス方向、スライス位置に関係なく画像を1枚ずつ同期表示できること。
	3-1-117	スライス厚が異なるシリーズをページング連携する際、一番近いスライス位置の画像を表示できること。
	3-1-118	ページング連携時に手動でスライス位置を合わせて同期できること。
	3-1-119	ページング連携時にキーボードショートカットのキーダウンで同期を解除し、手動でスライス位置を合わせた後、キーアップで同期を再開できること。
	3-1-120	ページング連携はシネ再生時にも動作すること。
	3-1-121	DICOM タグ情報のスライス位置を利用して、複数シリーズ間で三次元的に同じ位置のイメージ及びポインタを表示（インテリリンク）できること。
	3-1-122	シリーズ画像をMPR、MIP、MinIP、AveIP（Raysam）表示できること。
	3-1-123	MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像の直行3断面をワンアクションで切り替え表示できること。
	3-1-124	MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のオブリーク断面を表示できること。
	3-1-125	MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のダブルオブリーク断面を表示できること。
	3-1-126	MPR、MIP、MinIP、AveIP 表示時に、オブリーク断面+直行3断面の4分割表示に切り替えできること。
	3-1-127	MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚をショートカット及びマウスホイールにて変更できること。
	3-1-128	MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚を数値入力して変更できること。
	3-1-129	複数の選択したシリーズに対するMPR比較表示ができること。
	3-1-130	表示中の検査の表示状態（以下、スナップショット）を一時的に保存し、再復帰できること。
	3-1-131	検査を閉じる際にスナップショットを自動で保存するかどうかを指定できること。
	3-1-132	スナップショットを保存する際にタイトルを指定できること。また、再復帰時に保存されたタイトルを指定して表示できること。
	3-1-133	ユーザーがある端末で保存したスナップショットをサーバーにアップロードし、別の端末にて再復帰できること。
	3-1-134	過去検査リスト、サムネイルバー、シリーズ画像上で検査日が異なる検査を識別できること。
	3-1-135	Basic SR、Dose SR（被ばく線量レポート）、RRDSR、PDFなどのDICOM形式のレポートを表示できること。
	3-1-136	画像表示中に新たに画像が追加された場合にビューワー上で認識できること。
	3-1-137	ビューワーからオンラインヘルプが利用できること。
	3-1-138	DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。

	3-1-139	複数の動画像シリーズを同時にシネ表示できること。
	3-1-140	可変フレームレートが指定された場合でも、DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。
	3-1-141	デジタルサブトラクション血管造影撮影法 (DSA) で撮影された画像に対して、マスク画像値の減算処理ができること。
	3-1-142	血管造影検査画像の DICOM 情報から心電図 (ECG) が表示できること。
	3-1-143	シネ表示された画像を MPEG、AVI ファイルに出力する際、患者情報を匿名化するアノテーションが全フレームに適用できること。
	3-1-144	US モダリティの検査に対して計測が行えること。計測は、「Region Spatial Format」の「2D」、「M-Mode」、「Doppler」に対して実施できること。
	3-1-145	計測結果を検査単位で XML 出力できること。
	3-1-146	計測結果の保存権限がユーザーロール単位で制御できること。
	3-1-147	US モダリティ検査の DICOM SR ファイルから装置で実施した計測結果の取り込みができること。
	3-1-148	US、XA モダリティの検査画像に対して、シリーズ画像の並び替えがビューワーから行えること。並び替え操作はサムネイル画像のドラッグ操作で行い、表示／非表示の状態も変更できること。
	3-1-149	負荷心エコー検査画像をステージ、ビューごとにグループ化して読影プロトコルで表示できること。
	3-1-150	ビューワー上でシリーズの並び替えや、非表示などの修正が行えること。またそれを誰が行ったか記録する仕組みを有すること。
	3-1-151	指定の端末で 3D 解析システムと連携でき、サムネイル画像表示箇所に 3D 解析システム内のデータもサムネイル表示できること。また、そのサムネイルをダブルクリックすること 3D 解析システムを起動できること。
	読影医用ビューワー	
	3-1-152	読影用として指定されたワークステーションへは、以下の機能を搭載した読影医用ビューワーを用意すること。
	3-1-153	PACS サーバー内に保存されているデータを以下のフォルダに自動的に分類できること。 (1) 本日の検査 (2) 本日の検査：モダリティ別 (3) 最近 1 週間の検査 (4) 最近 1 週間の検査：モダリティ別 (5) 全検査 (6) 全患者
	3-1-154	分類された患者や検査をリスト表示できること。

	3-1-155	患者リストには「患者番号」「患者氏名」「性別」「生年月日」を表示できること。
	3-1-156	検査リストには「患者番号」「患者氏名」「検査番号」「モダリティ」「検査項目」「検査日時」「画像枚数」「検査ステータス（予約、到着、レポートあり）」を表示できること。
	3-1-157	リストに表示された検査を各項目でフィルタリング（検索）できること。
	3-1-158	リストに表示された検査を各項目でソート（並べ替え）できること。またソートは第3ソートまでできること。
	3-1-159	リストの内容をXML形式やCSV形式で出力できること。
	3-1-160	設定したフォルダに新しい検査が追加されたときに通知できること。
	3-1-161	リスト上に検査のサムネイル画像を表示できること。
	3-1-162	リストで選択した検査画像を表示できること。
	3-1-163	検査画像を開く際、モダリティなどの条件により、過去検査画像を同時に表示するかどうかを選択できること。
	3-1-164	PACS上でエクスポートした検査画像をオフライン状態で画像配信用ビューワー同等機能のビューワーにて参照できること。
	3-1-165	過去検査リストから検査レポートを表示できること。
	3-1-166	ユーザー及びモダリティごとにあらかじめ設定された表示フォーマット（以下、読影プロトコル）に従いシリーズ画像をスタック／タイル表示できること。
	3-1-167	読影プロトコルではシリーズ表示順、シリーズ表示レイアウト、イメージ表示レイアウト、過去検査（最大6検査）、過去シリーズ画像を指定できること。
	3-1-168	読影プロトコルでシリーズ表示レイアウトを指定する際、検査内のシリーズ数に応じて最適にレイアウトを変更する自動レイアウト機能を選択できること。
	3-1-169	読影プロトコルは複数登録でき、検査画像表示後にユーザーが切り替えできること。
	3-1-170	読影プロトコル適用後に表示される画面（以下、プロトコルステップ）が複数にわたる場合、前後及び任意のプロトコルステップに切り替えできること。
	3-1-171	読影プロトコルをユーザーがモダリティごとに設定できること。
	3-1-172	現在表示しているレイアウトを元に読影プロトコルを設定できること。
	3-1-173	検査画像表示時に患者情報パネル（患者番号、患者名、性別、検査時年齢、検査日、検査項目群、検査番号）を表示できること。
	3-1-174	検査画像表示時に同一患者の過去検査リストを表示できること。
	3-1-175	過去検査リスト内に複数のPACSサーバーの検査を表示できること。
	3-1-176	過去検査リスト項目には「検査日」「モダリティ」「検査項目群」「レポート、メモのあり／なし」を表示できること。
	3-1-177	過去検査リストを各項目でソートできること。

		3-1-178	過去検査リストをモダリティで絞り込みできること。その際、複数のモダリティを指定できること。
		3-1-179	過去検査リストで選択されている検査を現在表示されている検査に追加して比較表示（最大6検査）できること。
		3-1-180	比較表示の際、比較前の検査画像を残したまま、画面内の別タブに比較表示できること。
		3-1-181	過去検査リスト内の検査数が多い場合、リストをスクロールするのではなくリスト及びサムネイル領域を拡張表示して検査及びサムネイルを選択できること。
		3-1-182	過去検査を現在表示されている検査に追加して比較表示する際、現在検査に施した処理（W/L値、拡張、パンなど）が初期化されないこと。
		3-1-183	検査画像表示時にシリーズ画像のサムネイルバーを表示できること。
		3-1-184	サムネイルバーには過去検査リストで選択されている全ての検査のサムネイルが表示できること。
		3-1-185	サムネイルバーに表示するサムネイルの行数を指定できること。
		3-1-186	サムネイルバーのサムネイル上でシリーズ画像をスタック表示できること。
		3-1-187	サムネイルバーにてシリーズ番号、シリーズ情報、画像枚数を表示できること。
		3-1-188	サムネイルバーにて表示中・表示済・未表示・フォーカスありのシリーズ画像を識別できること。
		3-1-189	サムネイルバーを画像表示モニターごとに表示し、それぞれのモニター内で選択した検査画像のサムネイルを表示できること。
		3-1-190	過去検査リスト及びサムネイルバーを非表示にできること。
		3-1-191	過去検査リスト及びサムネイルバーを表示するかどうかをユーザー及びモダリティごとに設定できること。
		3-1-192	シリーズの表示順を Thin スライスシリーズ、Thick スライスシリーズ、スカウト画像シリーズなどの塊の順で表示できること。
		3-1-193	サムネイルバーからシリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップ、ダブルクリックしてシリーズを上書き・挿入表示できること。また、ドラッグ&ドロップの際に、ミニレイアウト画面を表示して、そこにドラッグ&ドロップすることでシリーズ画像を表示できること。
		3-1-194	サムネイルバーからシリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップする際、ミニレイアウト画面を表示して、そこにドラッグ&ドロップすることでシリーズ画像を表示できること。
		3-1-195	シリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップしてシリーズを上書き・挿入する際、複数のシリーズを指定できること。
		3-1-196	シリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップしてシリーズを上書き・挿入する際、同一方向のシリーズに対して、スライス及びFOV位置を自動的に合わせる事ができること。

		3-1-197	シリーズ画像の操作によりシリーズをコピー、移動、入れ替え、削除して表示できること。
		3-1-198	マス目を塗りつぶす形式にてシリーズの表示レイアウトを変更できること。
		3-1-199	検査に含まれる全ての画像を1シリーズ（全画像シリーズ）として表示できること。
		3-1-200	シリーズ画像内で「前シリーズ」「次シリーズ」「シリーズ一覧」を指定してシリーズを切り替ええること。
		3-1-201	選択したシリーズのみをワンアクションで適切なレイアウトにて表示し、さらにワンアクションで元のレイアウトに戻せること。
		3-1-202	シリーズ内に複数のサブシリーズが含まれる場合、画像向き・間隔及び任意のタグ値を利用して、シリーズを分割して表示できること。
		3-1-203	検査内の複数のシリーズを結合して1つのシリーズとしてビューワー上に表示できること。
		3-1-204	同一シリーズのThinスライス画像とThickスライス画像が存在する際、ビューワー上にてワンボタンでThin/Thickスライスシリーズの表示を切り替ええること。
		3-1-205	CTの肺野条件と縦郭条件のシリーズが存在する際、ビューワー上においてワンボタンで肺野/縦郭シリーズの表示を切り替ええること。
		3-1-206	シリーズ画像に対して、以下の画像操作ができること。 (1) 階調変更、拡大・縮小、移動、ページング、部分拡大（虫めがね） (2) 左右反転、上下反転、左右90度回転、180度回転 (3) 画像フィット表示、ピクセル等倍表示、被写体フィット表示
		3-1-207	CTやMRのシリーズ画像に対して任意角度の左右回転ができること。
		3-1-208	シリーズ画像に対して、以下の画像処理操作ができること。 (1) 階調プリセット処理 (2) 白黒反転処理 (3) シャープネス・肺強調処理 (4) ぼかし処理
		3-1-209	W/L値の数値入力によりシリーズ画像の階調を変更できること。
		3-1-210	画像上で任意に領域を指定後、領域内で最適なW/L値を計算して画像全体にそのW/L値を適用できること。
		3-1-211	階調プリセットはユーザー及びモダリティごとに最大9個までユーザーが設定できること。
		3-1-212	マウス操作による階調変更時のW/L値増減方向及び変化速度をユーザーごとに設定できること。
		3-1-213	モノクロ8bit画像に対して階調を変更できること。
		3-1-214	RGB画像に対して明るさ・コントラストを変更できること。

	3-1-215	拡大・縮小率の数値入力によりシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
	3-1-216	拡大・縮小率プリセットを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
	3-1-217	画像初期表示時の表示倍率を指定できること。
	3-1-218	マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小時の上下方向及び変化速度をユーザーが設定できること。
	3-1-219	マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小の中心を、ビューの中心又はマウスポイントの中心のいずれかをユーザーごとに設定できること。
	3-1-220	マウスホイールを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
	3-1-221	シリーズ画像をページングするためのスライダーバー機能を利用できること。
	3-1-222	マウス操作によるシリーズ画像ページング時の画像読み飛ばし ON/OFF 及び変化速度をユーザーごとに設定できること。
	3-1-223	マウスホイールの回転速度及び回転幅に応じて、シリーズ画像ページングの変化速度をユーザーごとに設定できること。
	3-1-224	シリーズの最初及び最後の画像へワンアクションで移動できること。
	3-1-225	シリーズ画像をシネ表示（昇順／降順表示、開始、停止、速度調整）できること。
	3-1-226	シリーズ画像をシネ表示する際、シネ操作パネル（ボタンアイコンなど）を使用せずにマウス操作のみで昇順／降順表示、開始、停止、速度調整ができること。
	3-1-227	DICOM フレームレートを考慮して動画画像をシネ表示できること。
	3-1-228	DICOM フレームレートを考慮して動画画像をシネ表示する際、表示速度を優先（画像描画が追いつかない場合、画像を飛ばす）させて再生できること。
	3-1-229	複数の動画画像シリーズを同時にシネ表示できること。また、シネ表示をストップさせずに階調変更、拡大・縮小、移動の画像操作ができること。
	3-1-230	シリーズ画像を逆順にソートできること。
	3-1-231	シリーズ画像を任意の DICOM タグを利用してソートできること。
	3-1-232	マウスホイールを利用してイメージ表示レイアウト（タイル表示のレイアウト）を変更できること。
	3-1-233	シリーズ画像をダブルクリックすることで1モニターに対してシリーズ表示レイアウトを1×1表示でき、再度ダブルクリックすることにより1×1表示を解除できること。
	3-1-234	画像にブックマークを設定しブックマーク画像のみを表示できること。
	3-1-235	画像の DICOM ヘッダー情報を一覧で表示できること。
	3-1-236	2つのシリーズを重ね合わせてサブトラックション表示できること。
	3-1-237	計測領域内の CT 値（画素値）をヒストグラム表示できること。
	3-1-238	画像上で以下のアノテーションを付加・計測できること。 (1) 画素値

			<ul style="list-style-type: none"> (2) 距離 (3) 角度 (4) テキスト (5) 矢印 (6) 矢印+テキスト (7) フリーハンド (8) 線分比 (9) 楕円 ROI (10) 正円 ROI (11) 矩形 ROI (12) 多角形 ROI (13) フリーハンド ROI (14) フリーハンド長さ
		3-1-239	角度を計測する際、異なる画像間においても計測できること。
		3-1-240	任意の行×列の画素値マップを表示できること。
		3-1-241	領域の自動認識により距離計測を自動補正できること。
		3-1-242	領域の自動認識によりアノテーション（多角形 ROI）をビューワー画面内で（別画面を起動せずに）付加、計測及び修正できること。
		3-1-243	領域の自動認識により 3Dアノテーション（VOI）をビューワー画面内で（別画面を起動せずに）付加、計測及び修正できること。
		3-1-244	領域の自動認識による 3Dアノテーション（VOI）の体積を表示できること。
		3-1-245	交わらない 2 直線の角度を計測できること。
		3-1-246	4 点及び 6 点計測法を用いて、2 つの線分の長さ及び比率を計測（心胸隔比計測）できること。
		3-1-247	臓器認識を利用して自動で心胸隔比を計測できること。
		3-1-248	4 点計測法を用いて、関心領域の幅（最大短径）を計測できること。
		3-1-249	Evans Index（頭部 CT、頭部 MR）を計測できること。
		3-1-250	Cobb 角、Baumann 角、Sharp 角、CE 角、AHI、AHI（角度）、FTA（左右）、適合角、外反母趾角を計測できること。
		3-1-251	計測途中においても計測値が表示されること。
		3-1-252	特定のキーを押しながら計測することで、計測終了時に計測結果を表示しないようにできること。
		3-1-253	シリーズ画像に付加したアノテーションを別のシリーズにコピーできること。
		3-1-254	シリーズ画像に付加したアノテーションを同一シリーズ内の全ての画像にワンアクションでコピーできること。
		3-1-255	アノテーションの計測結果を文字列としてクリップボードにコピーできること。

		3-1-256	ROI アノテーションにおいて、「面積」「平均値」「平均径」「標準偏差」「最大値」「最小値」「長径」「短径」「外周」「中央値」「長さ」を表示できること。
		3-1-257	ROI アノテーションで表示する項目及び値の小数点以下の桁数をユーザーごとに設定できること。
		3-1-258	アノテーションを表示／非表示できること。
		3-1-259	アノテーションの色及びフォントサイズをユーザーごとに設定できること。
		3-1-260	DICOM ヘッダー情報を画像上にオーバーレイ情報として表示／非表示できること。
		3-1-261	オーバーレイ情報として表示する項目をユーザー、モダリティ及び AE タイトル (+SOP クラス) ごとに任意にユーザーが指定できること。
		3-1-262	オーバーレイ情報を匿名化して表示できること。
		3-1-263	画像の表示枠に応じてオーバーレイ情報のフォントサイズが変化すること。
		3-1-264	オーバーレイ情報の色及びフォントサイズを設定できること。
		3-1-265	DICOM6000 番台のオーバーレイ情報を表示できること。
		3-1-266	表示中の画像のリファレンス線を表示／非表示できること。
		3-1-267	リファレンス線に画像番号が表示されること。
		3-1-268	リファレンス線を表示する際に「最初と最後とアクティブ」「アクティブのみ」を選択できること。
		3-1-269	シリーズの異なる複数の画像の ROI 計測値 (Time Intensity Curve 含む)、画素値、面積、長さをグラフ表示できること。
		3-1-270	任意の 2 つのシリーズ画像をフュージョン表示できること。
		3-1-271	任意の 2 つのシリーズ画像の直行 3 断面 + フュージョン + 全 MIP 画像をワンアクションで表示できること。
		3-1-272	フュージョン表示時に上画像のみを移動及びページングできること。
		3-1-273	マニュアルにて病変トラッキング機能を利用できること。
		3-1-274	先頭画像から指定した枚数の画像を重ね合わせて MIP、MinIP、AveIP (Raysam) 表示 (畳み込み表示) できること。
		3-1-275	マウスの右、左、中、左右 (両押し) ボタンのそれぞれに画像操作機能を割り当てることのできる。
		3-1-276	画像操作モードの切り替え及び画像操作をキーボードショートカット、コントロールバー (アイコンバー)、右クリックメニューにて実施できること。
		3-1-277	キーボードショートカット (ファンクションキー含む)、コントロールバー (アイコンバー)、右クリックメニューはユーザーごとに設定できること。
		3-1-278	画像操作モードの切り替え及び画像操作をボタンメニュー (ツールボックス) にて実施できること。

		3-1-279	画像を表示した際の画像操作モードを「前回値」又は「初期値」に設定できること。
		3-1-280	画像操作中に画像操作モードをワンアクションで「前回値」又は「初期値」に戻せること。
		3-1-281	1回の操作で複数の操作を行うプリセット（複合コマンド）を作成し、それをメニューやショートカットキーから実行できること。
		3-1-282	画像の全体又は選択した領域を Bitmap 形式にてクリップボードにコピー又はファイルに出力できること。
		3-1-283	選択したシリーズ画像を Jpeg、Bitmap、Png 及び Tiff 形式にてファイルに出力できること。また、出力時に複数の画像を1枚の画像として出力できること。
		3-1-284	選択したシリーズ画像を PPT 形式にてファイルに出力できること。
		3-1-285	シネ表示された画像を AVI ファイルに出力できること。
		3-1-286	表示中の画像を DICOM プリントできること。
		3-1-287	以下のシリーズ画像操作に対してシリーズ間の連携ができること。 (1) ページング (2) 拡大・移動 (3) 階調・画像処理 (4) 虫めがね (5) 回転・反転 (6) アノテーション (7) 領域選択 (8) タンブリング（回転） (9) レンダリング
		3-1-288	拡大・移動連携時に基準位置をずらして移動操作できること。
		3-1-289	シリーズ間の各連携設定をユーザーごとに ON/OFF できること。
		3-1-290	連携するシリーズを任意に選択できること。
		3-1-291	連携するシリーズを同一検査、同一方向の条件にて自動で選択できること。
		3-1-292	連携するシリーズを複数グルーピング（最大10）できること。また、グルーピングを1アクションで解除できること。
		3-1-293	ページング連携時に DICOM タグ情報のスライス位置にて自動で同期表示できること。
		3-1-294	ページング連携時にスライス方向、スライス位置に関係なく画像を1枚ずつ同期表示できること。
		3-1-295	スライス厚が異なるシリーズをページング連携する際、一番近いスライス位置の画像を表示できること。
		3-1-296	ページング連携時に手動でスライス位置を合わせて同期できること。

		3-1-297	ページング連携時にキーボードショートカットのキーダウンで同期を解除し、手動でスライス位置を合わせた後、キーアップで同期を再開できること。
		3-1-298	ページング連携はシネ再生時にも動作すること。
		3-1-299	選択されているシリーズの FOV 位置をワンアクションで合わせることができること。
		3-1-300	選択されているシリーズの階調、画像処理をワンアクションで合わせることができること。
		3-1-301	シリーズ画像を MPR、MIP、MinIP、AveIP (Raysam) 表示できること。
		3-1-302	MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像の直行 3 断面をワンアクションで切り替え表示できること。
		3-1-303	MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のオブリーク断面を表示できること。
		3-1-304	MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のダブルオブリーク断面を表示できること。
		3-1-305	MPR、MIP、MinIP、AveIP 表示時に、オブリーク断面+直行 3 断面の 4 分割表示に切り替えできること。
		3-1-306	MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚をショートカット及びマウスホイールにて変更できること。
		3-1-307	MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚を数値入力して変更できること。
		3-1-308	MIP、MinIP、AveIP 画像のスライス間隔を変更できること。
		3-1-309	レンダリング条件 (例: MIP-サジタル- 5mm など) のプリセットを利用できること。
		3-1-310	任意断面画像をタンプリング (回転) させる際、回転中心を指定できること。
		3-1-311	CPR を表示できること。
		3-1-312	3 DMRA 画像から 1 アクションで 3 DMIP が作成できること。
		3-1-313	骨及び体表の臓器認識機能を用いた骨抜き機能をビューワー画面内で (別画面を起動せずに) 利用できること。
		3-1-314	ユーザーがある端末で行ったビューワーの設定を、ユーザー自身で別の端末にも反映できること。
		3-1-315	ユーザーが行ったビューワーの設定をエクスポートし、別のユーザーや別の施設でインポートできること。
		3-1-316	表示中の検査の表示状態 (以下、スナップショット) を一時的に保存し、再復帰できること。
		3-1-317	検査を閉じる際にスナップショットを自動で保存するかどうかを指定できること。
		3-1-318	スナップショットを保存する際にタイトルを指定できること。また、再復帰時に保存されたタイトルを指定して表示できること。
		3-1-319	ユーザーがある端末で保存したスナップショットをサーバーにアップロードし、別の端末にて再復帰できること。

	3-1-320	スナップショットのリンクファイルを保存できること。
	3-1-321	過去検査リスト、サムネイルバー、シリーズ画像上で検査日が異なる検査を識別できること。
	3-1-322	画像表示中に新たに画像が追加された場合にビューワー上で認識できること。
	3-1-323	ビューツールバー上に表示するアイコンをユーザーが任意に設定できること。
	3-1-324	ビューワーからオンラインヘルプが利用できること。
	3-1-325	検査リスト上で指定した検査又はサムネイルバー上で選択したシリーズ（US、MR など）を別ウィンドウで画像表示できること。
	3-1-326	オブリーク断面を作成できること。
	3-1-327	ビューワーで作成された ADC map の ADC 値を計測できること。
	3-1-328	シリーズ記述による自動並び替えができること。
	3-1-329	複数シリーズを1つの動画ファイルにまとめて出力できること。
3-2	レポートシステム	
	3-2-1	新規レポートシステムでは、既存レポートシステムで可能であった機能を有すること。有しない場合は、当院担当者に代案を提案し、協議すること。
	3-2-2	新規レポートシステムでは、既存の各種設定・機能、装置・機器との接続などを同様に行うこと。
	3-2-3	既存レポートシステムに接続されている環境や接続設定を全て実施すること。
	3-2-4	既存レポートシステムに設定されていた各種設定を有すること。有しない場合は、当院担当者に代案を提案し、協議すること。また、ユーザーが意識することなく新システムに移行できること。
	3-2-5	レポートシステムにログインした場合は、ユーザーや職制に従い、操作可能な機能のみが提供される機能を有すること。また、参照のみ、記入のみの一次読影医、査閲・認証のできる二次読影医の設定機能を有すること。
	3-2-6	既存のレポートシステム内のデータについては、原則データ移行を行うものとするが、移行に際して過不足項目が発生する場合や検査項目のコード体系が変わり、コンバードが必要な場合には、当院担当者と協議の上、方向性を検討すること。
	3-2-7	読影レポートについては、必ず版数管理を行い、医療訴訟などが発生した場合にデータの開示ができること。
	3-2-8	レポート未記入枠作成のタイミングは、上位システムでの検査受付時や検査完了時に指定できること。
	3-2-9	上位システムから受け取ったオーダー情報を PACS へ送信できること。
	3-2-10	手入力で患者、検査情報を入力することで、未記入レポートを作成できること。
	3-2-11	以下の項目をリストに表示できること。 (1) レポートステータス（未記入、読影中、確定済など） (2) 患者番号、カナ患者名、漢字患者名、性別、生年月日

		<ul style="list-style-type: none"> (3) 検査種別、モダリティ、部位 (4) 依頼科、依頼医 (5) 入外区分 (6) 検査番号 (7) 優先度（緊急、至急など） (8) 読影区分 (9) 臨床診断名 (10) 現在の記入者、保存者、確定者 (11) 初回最終確定者 (12) 検査日、確定日、最終更新日 (13) 印刷、遠隔依頼ステータス (14) 重要レポートステータス (15) レポート確定後の画像枚数変更ステータス (16) 所見、診断、報告者メモ、検査コメント、検査目的、患者メモ など
	3-2-12	リストに表示する項目及び項目の並び順を変更できること。
	3-2-13	レポートステータス（未記入、読影中、確定済など）をリスト上で色別表示できること。
	3-2-14	レポートの状態（未記入、読影中、確定済）又はステータス（一次確定、二次確定、最終確定など）で件数表示ができること。
	3-2-15	PACS への画像到着状況、画像枚数を管理でき、リスト上に表示及びリスト上で検索できること。 また、レポート確定後に画像枚数が変更された場合は画像枚数変更ステータスがリスト上に表示及び検索できること。
	3-2-16	読影予定者及び読影予定日時を事前に指定でき、リスト上に表示及びリスト上で検索できること。また、指定の際、コメントも入力できること。
	3-2-17	検査の依頼医が確定レポートを参照したかどうかを管理でき、リスト上に表示及びリスト上で検索できること。
	3-2-18	リスト上のレポートを選択して、レポート作成を開始できること。
	3-2-19	読影医用ビューワー上からレポート作成を開始できること。
	3-2-20	レポート作成中の画面からリスト表示画面に戻ることなく、連続してレポート作成できること。
	3-2-21	リスト上の確定されたレポートを選択して、レポートを参照できること。
	3-2-22	レポート参照の画面からリスト表示画面に戻ることなく連続してレポート参照できること。
	3-2-23	リスト上のレポートを選択して簡易的なレポート内容が記載されているサマリ画面が表示できること。
	3-2-24	サマリ表示画面はレポートリスト上にて上下キーの操作で表示切替できること。
	3-2-25	リスト上のレポートを選択して、レポートを印刷できること。

	3-2-26	リストで選択したレポートを一括確定できること。
	3-2-27	リストで選択したレポートの「読影区分」を変更できること。また、施設運用に合わせて任意の値で汎用列を更新できること。
	3-2-28	レポートをリスト表示画面内で分類フォルダに分類し、分類フォルダ内のリストが表示できること。
	3-2-29	分類フォルダは、施設用、所属科用、個人用のいずれかで管理できること。
	3-2-30	表示中のリストを CSV 形式でファイルに出力できること。
	3-2-31	リストで選択した患者の検査リストが表示できること。
	3-2-32	メインで使用しているリストとは独立したサブリストの表示ができること。
	3-2-33	リスト画面に「画像診断管理加算 2」を考慮した検査件数、読影件数、翌営業日までの読影割合を設定した休診日を考慮して表示ができること。
	3-2-34	PACS と連動し、選択されたレポートの対象検査の画像（読影医用ビューワー）を表示できること。
	3-2-35	レポート作成画面にて、患者情報・検査情報を参照できること。
	3-2-36	レポート作成中の患者に対するメモを入力、編集及び参照できること。（本情報は、レポート横断で管理されること。）
	3-2-37	患者に対するメモに資料を添付できること。
	3-2-38	レポート作成画面にて、オーダー情報を参照できること。
	3-2-39	検査目的、検査コメントは、フリーテキストで入力、追記、編集できること。
	3-2-40	レポート作成画面で、所見、診断を入力できること。また、所見、診断とは別に、報告者メモを設けてフリーコメントが入力できること。
	3-2-41	レポート記入画面の所見、診断、報告者メモの入力欄の拡大率を変更できること。
	3-2-42	読影医用ビューワー上で所見、診断、報告者メモの記入が可能なレポート作成補助画面を表示でき、入力内容がそのままレポート作成画面に反映できること。
	3-2-43	読影医用ビューワー上で測定した以下の計測値が右クリックメニューに表示され、所見、診断に入力できること。 (1) 距離 (2) 距離（補助付） (3) 楕円 ROI (4) 矩形 ROI (5) 多角形 ROI (6) フリーハンド ROI (7) 2点指定 ROI (8) 心胸郭比（4点指定） (9) 心胸郭比（6点指定）
	3-2-44	読影医用ビューワーの所見情報をレポート記入画面の所見欄に転記できること。また、グラフ情報もキー画像として添付できること。

		3-2-45	読影医用ビューワー上からマウス移動することなくレポート作成画面の所見、診断、報告者メモ入力欄にフォーカスを移動し入力できること。
		3-2-46	事前に登録された定型文を利用して所見、診断を入力できること。
		3-2-47	事前に登録された定型文を利用して報告者メモを入力できること。
		3-2-48	入力欄にカーソルがある場合には、カーソル位置に定型文を挿入できること。
		3-2-49	所見、診断、報告者メモの定型文を一括で挿入できること。
		3-2-50	定型文は、以下の分類で登録され、選択できること。 (1) 全ユーザー共通、ユーザーごと (2) グループ共通、グループごと (3) 所属科共通、所属科ごと (4) 全検査種別共通、検査種別ごと (5) 全部位共通、部位ごと
		3-2-51	入力ボックスを含めた定型文を挿入でき、入力ボックスに任意の文字を入力できること。
		3-2-52	ユーザーが自由に作成した選択肢から選択する形式(プルダウン形式)の入力領域を持つ定型文で入力できること。
		3-2-53	レポート入力中に定型文タイトルや内容に前方一致した定型文一覧がサジェスト表示され選択できること。
		3-2-54	患者の過去レポート一覧を表示し、選択したレポートの内容を参照できること。
		3-2-55	読影医用ビューワー上にて指定した検査のレポートが過去レポート表示欄に表示できること。
		3-2-56	過去レポート一覧には、レポートが未記入、未確定の検査も含むこと。
		3-2-57	過去レポートから所見、又は診断をコピーし、作成中のレポートに貼付けが可能であること。
		3-2-58	読影医用ビューワー上に表示しているレポート作成補助画面から、過去レポート表示欄に表示されているレポートの所見、又は診断をコピーし、作成中のレポートに貼付けが可能であること。また、引用句のコピーもできること。
		3-2-59	過去レポートから所見と診断を一括でコピーし、作成中のレポートに貼付けが可能であること。
		3-2-60	過去レポートからテンプレート内容をコピーし、作成中のレポートに貼付けが可能であること。
		3-2-61	過去レポートの参照画像から以下の操作ができること。 (1) 現在レポートへのコピー (2) 別画面上に該当画像を表示し、前後の画像参照
		3-2-62	所見のコピー時に、予め設定された内容に従って、自動的に引用句を付与できること。
		3-2-63	所見、診断、報告者メモは、テキストに以下の装飾ができること。

			<ul style="list-style-type: none"> (1) スタイル、サイズ、色 (2) 太字、斜体、下線
		3-2-64	所見、診断、報告者メモは、テキスト入力時に Undo、Redo できること。
		3-2-65	PACS 上の画像を、参照画像（キー画像）としてレポートへ貼付けが可能であること。
		3-2-66	PACS 上の画像を、参照画像（キー画像）としてレポートへ貼付けが可能であること。
		3-2-67	読影医用ビューワーに保存しているスナップショットをキー画像としてレポートへ貼付けが可能であること。また、貼り付けたスナップショット用キー画像から読影医用ビューワーを起動しスナップショットの状態を表示できること。
		3-2-68	汎用ファイル (bmp、jpg) の画像を、参照画像（キー画像）としてレポートへ貼付けが可能であること。
		3-2-69	キー画像の確定レポートへの公開／非公開が設定できること。
		3-2-70	事前にユーザーが登録したシェーマ画像をレポートへ貼付けが可能であること。
		3-2-71	<p>シェーマ画像は、以下の分類で登録され、選択できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 全検査種別共通、検査種別ごと (2) 全部位共通、部位ごと
		3-2-72	<p>レポートに貼り付けた参照画像・シェーマ画像に対して、以下のアノテーションを描画できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) テキスト (2) 直線 (3) 矢印 (4) 楕円 (5) 矩形 (6) 三角 (7) × (8) 引き出し線（テキスト付き矢印） (9) パレット（番号などの定型句付き矢印・楕円） (10) スタンプ（記号などの定型句） (11) フリーハンド など
		3-2-73	<p>アノテーションは、以下の変更ができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) テキスト：フォント、サイズ、色、スタイル（太字、斜体、下線） (2) 図形：線幅、線種、色の指定、拡大・縮小、回転、塗りつぶし、網掛け など
		3-2-74	アノテーションの図形には、ユーザーが自作した任意の図形も利用できること。
		3-2-75	貼り付けた参照画像・シェーマ画像にコメントを付与できること。
		3-2-76	貼り付けた参照画像・シェーマ画像は、レポート作成画面内にサムネイルで表示できること。また、表示順を変更できること。
		3-2-77	貼り付けた参照画像を所見、診断欄に D&D 又は右クリックメニューから選択することで参照画像番号が自動入力されること。

			また、参照画像の表示順の変更や削除を行うと所見や診断の参照画像番号も連動すること。
		3-2-78	レポートに添付資料を貼付けが可能であること。
		3-2-79	作成中のレポートに事前に登録されたキーワードを付与できること。
		3-2-80	キーワードは、以下の分類で登録され、選択できること。 (1) 施設用 (2) 所属科用 (3) 個人用
		3-2-81	作成中のレポートは自動で定期的に保存され、異常終了した場合のレポート作成再開時に保存した内容を復帰できること。
		3-2-82	作成中のレポートを一時保存できること。一時保存したレポートは、保存したユーザーあるいは別のユーザーが修正できること。
		3-2-83	作成が終了したレポートを確定保存できること。その際、ユーザーごとに確定レポートの表示イメージ（プレビュー画面）を表示するか否かを選択できること。
		3-2-84	設定により、確定時に自動で専用プリンターへレポートを出力できること。
		3-2-85	重要レポートフラグ（チェック方式、プルダウン方式）及び重要コメントを登録できること。また、確定通知に重要レポート情報を付加して送信できること。また、リスト、印刷、Web レポート画面に表示できること。
		3-2-86	システム設定により、一次／二次／三次／四次／五次のレポート確定運用を行えること。
		3-2-87	システム設定により、レポートの確定を取り消し、再度記入可能な状態に戻せること。また、管理者は未記入状態に戻せること。
		3-2-88	確定取消後、再確定するごとに、レポートの版数が更新されること。
		3-2-89	レポートの版数は、レポート参照画面及びレポート印刷で確認できること。
		3-2-90	一旦、確定されたレポートは履歴管理を行い、確定解除が行われた場合も確定時のレポートを保持し、過去履歴の確定レポートとして参照できること。
		3-2-91	レポート履歴管理において、前後の版の差分を表示できること。
		3-2-92	各ボタンのショートカットキー割り当てができること。
		3-2-93	レポート記入画面に「画像診断管理加算2」を考慮した検査件数、読影件数、翌営業日までの読影割合を設定した休診日を考慮して表示ができること。
		3-2-94	所見診断などのデフォルトで使用するフォントはユーザーごとに変更可できること。
		3-2-95	アノテーション描画ボタンをユーザーごとに配置や表示／非表示ができること。
		3-2-96	読影医用ビューワー上から送信された所見文にはハイパーリンク情報が紐づけられた状態で、所見欄に転記されること。

		3-2-97	過去レポートに含まれる所見文が読影医用ビューワーから送信され、ハイパーリンク情報が紐づいている場合、過去所見文を押下すると読影医用ビューワー上で検査画像が比較モードで表示する連携ができること。
		3-2-98	読影医用ビューワー上で今回検査の病変に対して所見文を記載する際に、過去病変と対応付けがされている場合、過去検査所見をコピーできること。
		3-2-99	読影医用ビューワー上から送信された今回検査所見文でハイパーリンク情報が紐づけられた際に、所見文を押下すると記載時の読影医用ビューワー画面が再現されること。
		3-2-100	スナップショット保存ができること。
		3-2-101	確定されたレポートは、Web 参照から (Web ブラウザで) 参照できること。また、PACS 患者マスタジャケットで参照できること。
		3-2-102	確定レポートには以下の内容を表示できること。 (1) 患者情報 患者番号、カナ患者名、漢字患者名、性別、生年月日、検査時年齢 など (2) 検査情報 検査番号、検査種別、部位、全部位、モダリティ、検査日、検査優先度、造影剤、検査目的、検査コメント、依頼科、依頼医、病棟 など (3) レポート内容 報告者、記入日、所見、診断、報告者メモ、参照画像 (サムネイル画像)、版数、参照画像コメント など
		3-2-103	一次/二次/三次/四次/五次確定を行う場合は、一次で公開するか、二次で公開するか、三次で公開するか、四次で公開するか、五次で公開するか、を設定できること。
		3-2-104	レポートに貼り付けられた参照画像 (キー画像) のサムネイルが表示できること。
		3-2-105	貼りつけられた参照画像を別画面で表示できること。 別画面で表示された状態で、画面を閉じずに、番号順に前後の参照画像も表示できること。
		3-2-106	キー画像から該当検査のシリーズを別画面に表示でき、かつ参照画像のスライス位置で初期表示できること。
		3-2-107	キー画像から PACS 画像 (読影医用ビューワー) を表示できること。
		3-2-108	確定レポートを印刷できること。
		3-2-109	確定レポートの印刷イメージを PDF 形式で出力できること。
		3-2-110	確定レポートから既読操作ができること (自動/手動設定)。確定レポートを起動したユーザーが依頼医と同一の場合は自動的に既読になること。
		3-2-111	手動既読設定の場合、既読操作可能ユーザーを「依頼医のみ」「依頼医、依頼科」「全てのユーザー」から選択できること。
		3-2-112	確定レポートの読影医用ビューワー上から送信された所見文から、ハイパーリンク情報を用いて対象の所見文を送信したビューワーの状態に復元できること。
		3-2-113	確定レポートに表示される検査種の表示色は任意の色に設定で変更ができること。

	3-2-114	印刷部数、印刷先プリンターを選択して、レポートを印刷できること。
	3-2-115	複数の印刷フォーマットから、使用するフォーマットを選択してレポートを印刷できること。
	3-2-116	レポートを画面上に表示（プレビュー）し、印刷イメージを確認できること。
	3-2-117	<p>確定（最終確定）済み又は全てのレポートに対して、以下の項目に、特定の単語が含まれる又は含まれないなどの条件でレポートを検索できること。</p> <p>(1) 所見、診断、報告者メモ (2) 検査目的、検査コメント (3) 患者メモ (4) 臨床診断名 など</p>
	3-2-118	<p>レポート全文検索の際には、以下の項目を条件に含むことができること。</p> <p>(1) 検査日、更新日時 (2) モダリティ、部位 (3) 造影剤 (4) 依頼科、依頼医 (5) 読影医 (6) 患者番号、カナ患者名、漢字患者名、性別、生年月日 (7) 検査番号 (8) キーワード など</p>
	3-2-119	検索結果に所見・診断情報を表示できること。
	3-2-120	検索結果に所見・診断情報とキー画像を切り替えて表示できること。
	3-2-121	検索条件を保存し、それを呼び出して検索できること。
	3-2-122	所見・診断情報も含め、検索結果を CSV 形式でファイルに出力できること。
	3-2-123	検索結果のレポート一覧にキー画像が表示されること。
	3-2-124	ユーザー認証は、ユーザーID とパスワードで行えること。
	3-2-125	ユーザーID、パスワードでレポート作成、表示、管理などの権限が制御でき、レポート改ざん防止、患者のレポートデータを保護できること。
	3-2-126	<p>ユーザーごとに以下の権限を付与できること。</p> <p>(1) レポート表示：確定したレポートの表示が可能かつ記入や変更は不可 (2) レポート作成：レポートの未記入枠を作成することが可能 (3) レポート一次確定：レポートを記入し、一次確定することが可能 (4) レポート二次確定：レポートを記入し、一次／二次確定することが可能 (5) レポート三次確定：レポートを記入し、一次／二次／三次確定することが可能 (6) レポート四次確定：レポートを記入し、一次／二次／三次／四次確定することが可能 (7) レポート承認：レポートを記入し、全てのステータスで確定することが可能 (8) レポート印刷：レポート表示に加えて、レポートの印刷が可能 (9) 管理者：設定の変更、各マスタの管理を行うことが可能</p>

	3-2-127	権限の変更はユーザーにて設定できること。
	3-2-128	当院が指定するレポートシステム読影端末4式については、既存音声入力ソフトウェアの設定を移行すること。完全移行が困難な場合は、当院担当者に代案を提案し、協議すること。
	3-2-129	RIS から受信した患者情報、検査情報、検査実施情報、検査実施における HIS/RIS コメントなどを表示できること。
	読影統計データ抽出機能	
	3-2-130	専用の分析画面によりシステムで扱うデータを自由に組み合わせてデータの集計ができること。
	3-2-131	出力する項目はユーザーにて画面上で指定できること。
	3-2-132	対象の期間 (From と To) やその他の条件、分析項目 (ディメンジョン)、分析値 (メジャー) の組合せを自由に選択できること。
	3-2-133	「画像診断管理加算2」を考慮した統計データの抽出ができ、元となる未加工データを取り出しできること。
	3-2-134	出力する項目や検索条件は、保存して再利用できること。
	3-2-135	読影業務分析ができ、標準的なテンプレートが存在すること。
	3-2-136	分析結果は Excel 形式の数値データ、グラフ (棒グラフ) でのファイル出力できること。
	3-2-137	検査項目を分析用に分類分けでき、各統計にて分析用分類ごとの集計値が出力できること。分類は複数パターン使用できること。
	3-2-138	未加工のデータ取り出しが Excel 形式や csv 形式でできること。
	3-3	RIS
	前提条件	
	3-3-1	新規 RIS では、既存 RIS で可能であった機能を有すること。有しない場合は、当院担当者へ代案を提案し、協議すること。
	3-3-2	既存 RIS サーバーに接続されている画像診断装置との DICOM、MWM 及び MPPS 接続設定を実施すること。
	3-3-3	既存で管理されているデータを稼働までに完全移行すること。移行に関わる費用も含めること。
	3-3-4	当院で稼働中の各種システムとの画像参照連携接続を維持すること。
	セキュリティ	
	3-3-5	パスワードは画面上ではアスタリスクなどの代替文字で表示されていること。
	3-3-6	パスワードは設定によりハッシュ化されて保存できること。
	3-3-7	一定時間、システムが使用されていない場合、オートログアウト機能により自動的にログアウトしてシステムをロックできること。

	3-3-8	ロックされた画面ではパスワードの再入力によるロックの解除、あるいは強制終了の選択ができること。
	3-3-9	使用可能な機能はログインユーザーの権限に応じて制御されること。
	アカウント管理機能	
	3-3-10	ID とパスワードによりユーザー認証が行われること。
	3-3-11	ログインユーザーの権限により使用できる機能が制限されること。
	3-3-12	同一権限のユーザーであれば画面の状態を保持したままユーザーの切り替えを行えること。
	3-3-13	他システムから ID とパスワードを引き継いで起動できること。
	監査証跡機能	
	3-3-14	ユーザー操作の履歴を操作ログとして保存できること。
	3-3-15	権限をもつユーザーのみが操作ログを参照できること。
	3-3-16	クライアントに出力されたログファイルは古くなると圧縮されること。
	3-3-17	クライアントで発生した予期せぬエラーはイベントログテーブルに出力されること。
	3-3-18	検査実施情報の更新履歴が保存され、必要に応じて更新前と更新後の内容を照らし合わせることができること。
	他システム連携機能	
	3-3-19	診断画像を参照するため、PACS の画像配信用ビューワーを起動できること。
	3-3-22	自社、他社を問わず、レポートを参照できること。
	3-3-21	URL 呼出や実行ファイル起動などにより、他システムの参照機能を起動するボタンを設定にて各画面に追加できること。
	検索条件リスト機能	
	3-3-22	用途に応じた検索条件や表示項目がタブとして管理され、複数のタブを一つの画面に表示できること。タブの表示順序は変更できること。
	3-3-23	検索条件、表示リストの項目は端末ごと、タブごとに初期値の設定ができること。
	3-3-24	指定された検索条件の中で、一時的に変更したい条件はフィルタ条件としてタブに表示させることができ、画面を閉じること無く初期値に戻せること。
	3-3-25	検索条件は一時的に変更を行うことが多い条件は常に表示し、頻度の少ない条件は非表示とできること。非表示の検索条件も簡単な操作で表示できること。
	3-3-26	リスト項目は名前やアイコンを付加することができ、ユーザーごと、ユーザーグループごとに管理することができ、検索条件の初期値やリスト表示項目などの編集ができること。
	3-3-27	検索条件は連動絞込ができること。検査種で選択すると、検査室や検査項目が当該検査種のものだけに絞り込まれること。

	3-3-28	画面起動時には、初期表示タブの指定ができること。
	3-3-29	タブの指定は権限を持つユーザーであれば、他の端末についても一括で設定できること。
	3-3-30	リスト表示項目の詳細では、以下を指定できること。 (1) リスト出力項目 (2) タイトル (3) 順序 (4) 日付、時刻フォーマット (5) 配置方向 (6) 幅 (7) フォント名、サイズ
	3-3-31	リスト表示項目の順序、幅は、リスト上での変更をそのまま設定値として反映できること。
	3-3-32	リスト表示に於ける詳細設定では、以下を指定できること。 (1) タブ切り替え時の検索実行の有無 (2) 自動更新ボタン表示有無と初期有効可否と更新間隔 (3) 検索条件の自動初期化有無と自動初期化発動時間 (4) 固定列有無と列数 (5) 最終検索時刻の表示有無 (6) 検索結果件数表示有無 (7) 行罫線と列罫線の表示有無 (8) 行番号表示有無 (9) 行背景色（単色、ストライプ、ステータス依存） (10) ソート順
		コメント入力機能
	3-3-33	コメントは、フリー入力に加えてコメントパターンからの入力ができること。
	3-3-34	コメントパターンの編集は、コメント入力が可能なユーザーであればコメント入力欄から容易にコメントパターン編集画面を呼び出しできること。
	3-3-35	コメントパターンは、フォルダでの分類管理ができること。
		患者情報管理機能
	3-3-36	専用の画面にて患者番号、患者氏名などの患者基本情報の新規登録及び変更ができること。
	3-3-37	患者プロフィール情報として、以下のような項目を電子カルテと連携できること。 連携項目は電子カルテの連携仕様に依る。 (1) 看護区分 (2) 患者区分 (3) 救護区分 (4) 障害情報 (5) 感染情報 (6) 禁忌情報

		(7) 妊娠状態 (8) 死亡退院 (9) 体内金属 (10) クレアチニン値などの血液データ (11) eGFR など
	3-3-38	患者プロフィール情報については電子カルテから取得するものと RIS で登録するものなどの管理ができること。またその更新日時を保持できること。
	3-3-39	最新の患者プロフィール情報をユーザーが任意で取得し、画面に反映できること。更新仕様は電子カルテシステムベンダーの仕様に依る。
	3-3-40	患者プロフィール情報のうち、RIS で変更可能なものは各画面から更新できること。
	3-3-41	患者に付随するコメントの入力ができること。コメントは種別ごとに管理ができ、患者に永続的に付随するもの、特定の日付に付随するもの、特定の検査種に付随するものの入力、管理ができること。
	3-3-42	コメントは、フリー入力に加えて定型コメントからの入力ができること。
	3-3-43	定型コメントの編集は、コメント入力可能なユーザーであれば定型コメント選択欄から容易にできること。
	3-3-44	上記の患者に関する情報を各画面で表示できること。
	3-3-45	患者は、カナ患者名、病棟、診療科などの条件により検索できること。
	入外情報管理機能	
	3-3-46	患者の病棟名、室名、ベッド番号を入外情報として登録及び参照ができること。
	3-3-47	入外情報は、現時点の最新の情報、検査予定時点の予定情報、検査実施時の情報をそれぞれ管理できること。
	死亡患者管理機能	
	3-3-48	死亡した患者は死亡日の入力が可能であり死亡したことがわかる「★」などのマークがリストに表示されること。また、死亡した患者の年齢表示は死亡時の年齢に置き換えられること。
	RIS オーダー情報機能	
	3-3-49	専用の画面によりオーダー情報の登録ができること。
	3-3-50	RIS にて登録したオーダー情報の変更、削除ができること。
	受付機能	
	3-3-51	専用の画面により検査を検索してリスト表示を行い、検査の受付ができること。
	3-3-52	検索条件としては、検査依頼状況、患者番号、カナ患者名、検査予定日、検査種、依頼科、入外区分、病棟などが使用できること。
	3-3-53	当直時間帯での検索ができること。
	3-3-54	検査日未定として登録されたオーダーについて、その表示可否を指定できること。

		<p>受付リストには以下の項目が表示できること。項目は電子カルテベンダーの仕様に依る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 検査依頼状況 (2) 患者番号 (3) 患者氏名 (4) 性別 (5) 検査時年齢 (6) 患者プロフィール情報 (7) その他の患者付随情報 (8) 受付日時 (9) 検査予定日時 (10) 検査日時 (11) 検査種 (12) 検査項目 (13) 検査室 (14) 依頼科 (15) 依頼医 (16) その他の検査付随情報（同意書の表示など） (17) 患者コメント (18) 当日コメント (19) 緊急区分 (20) 救急区分 (21) 読影区分
	3-3-55	
		<p>受付画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとめて表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 受け付けた検査の検査順 (2) 当該患者の当日の他の検査の一覧
	3-3-56	
		<p>さらに、以下の情報も同一画面にまとめて表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末ごと又はユーザーごとの権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示／非表示を切り替えできること。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 当該検査の患者情報 (2) 当該検査のオーダー詳細・レポート参照 (3) 検索条件範囲外の該当患者のオーダー情報（検査歴・予定） (4) 検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）
	3-3-57	
		<p>患者番号が不明な場合、患者を検索する機能呼び出せること。</p>
	3-3-58	
		<p>優先的に検査を行う必要がある患者の場合、通常の受付とは区別して優先受付できること。</p>
	3-3-59	
		<p>受付時、受付番号を発番すること。受付番号は、部門全体で日ごとの連番、あるいは日ごとかつ検査種ごとの連番を設定にて指定できること。</p>
	3-3-60	

	3-3-61	受付処理は、単一患者を選択しての受付、あるいは複数の患者を一括で受付できること。
	3-3-62	受付時、検査項目ごとに検査室が割り振られること。
	3-3-63	複数の検査を同時に受け付けた場合、検査室に対して自動で順序付けできること。順序付けを行うか否かは設定により指定できること。
	3-3-64	受付時、設定により受付票、依頼票が自動で出力できること。出力するか否かは設定により変更できること。また、これらの帳票は手動にて再出力できること。
	3-3-65	検査日未定として登録されたオーダーを受付ける場合には、現在日時を検査日時として確定できること。
	3-3-66	割り振られた検査室、検査順は手動にて変更できること。
	3-3-67	受付済の検査の受付取消ができること。この時、同時に受け付けた複数のオーダーにて、一部のオーダーが一時保存、実施済であっても未実施のオーダーの受付取消ができること。
	3-3-68	患者番号は磁気カードやバーコードでの読み取り又は手入力により指定できること。
	3-3-69	患者番号の入力から検査の検索はバーコードで行うことができ、受付までの一連の操作もバーコードのみで実施できること。
	3-3-70	受付処理を行う際に、警告メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示できること。 当該検査と同じ患者・同じ日の他の検査（他検査）がある場合
	3-3-71	受付時に当日検査と直近検査間の禁則チェックを行うことができること。
	3-3-72	禁則チェックの条件は専用の設定画面にてユーザー自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には受付処理不可にもできること。
	検査ワークリスト機能	
	3-3-73	専用の画面により検査対象のワークリストを表示できること。
	3-3-74	検索条件としては、検査状況、患者番号、検査日（日未定含むか否か、当直時間帯か否かの指定も含む）、検査種、依頼科、入外区分、病棟、その他の検査付随情報、検査項目、検査室、PACS 画像状況、検像状況、オーダー発行日、呼び出し状況を指定できること。
	3-3-75	カナ患者名、病棟、診療科などで患者を検索して特定できること。
	3-3-76	リストには、患者情報、その他の患者付随情報、検査依頼情報、検査実施情報、その他の検査付随情報、各種コメント類（検査指示事項などを含む）、受付してからの待ち時間、呼び出し状況、呼出時間などの表示ができること。
	3-3-77	同月の複数回検査で、2回目以降の診療報酬点数が低くなる検査をリスト上で把握できること。
	3-3-78	検査の順序付けを行っている場合、検査前後の情報が視覚的にわかること。

	3-3-79	選択中のオーダーに対して、対象患者を検査室に呼び込む際に検査室確定の操作を行うことにより、当該検査室で検査を開始することを明示的に確認できること。また、他の検査室で検査を開始する際には注意喚起表示ができること。
	3-3-80	検査ワークリスト画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとめて表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末ごと又はユーザーごとの権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示／非表示の切り替えができること。 (1) 当該検査の患者情報 (2) 当該検査のオーダー詳細・レポート参照 (3) 当該検査の同じ患者・同じ日の他の検査の一覧（他検査） (4) 検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント） (5) RIS オーダーコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント） (6) 会計情報（物品手技加算情報）
	3-3-81	選択行のオーダーに対して、検査実施画面に遷移できること。
	3-3-82	設定により、未受付の検査を選択して検査実施画面へ遷移できること。
	3-3-83	検査実施画面への展開時、同じ受付番号をもつオーダーを同時に展開する場合と、個々に展開する場合とを切り替えできること。
	3-3-84	バーコード入力により入力された患者番号をもとに検索を行い、オーダーが存在した場合、自動的に検査実施画面に遷移すること。この場合、検索結果が複数オーダーの場合でも遷移すること。
	3-3-85	検査実施画面へ遷移する際に、設定により、検査実施画面に遷移する前に検査実施者の認証チェックを行い、権限のないユーザーの場合、検査実施画面に遷移することができないこと。
	3-3-86	検査実施画面から戻った際に、検索条件に患者番号が含まれている場合は患者番号をクリアして再検索できること。
	3-3-87	他端末にて同一検査の検査実施の画面が開かれている場合、メッセージが表示されて開くことができないように制御できること。
	3-3-88	選択行のオーダーに対して、オーダーの内容修正ができること。このとき、上位システムで発行したオーダーは変更できないように制限をかけることもできること。
	3-3-89	選択行のオーダーに対して、検査室の変更ができること。
	3-3-90	選択用のオーダーに対して、受付処理、一括受付処理、受付取り消し処理、一括受付取り消し処理が別画面に遷移することなく実行できること。
	3-3-91	選択行のオーダーに対して画像システムを呼び出しできること。
	3-3-92	選択行のオーダーに対して他システムを呼び出しできること。
	3-3-93	選択行のオーダーのレポート作成を開始できること。
	3-3-94	選択行のオーダーに対して、モダリティに MWM にて情報送信できること。

	3-3-95	選択行のオーダーに対して、実施前であっても会計情報（物品手技加算情報）が登録できること。
	3-3-96	選択行のオーダーの患者の検査歴・検査予定のリストを参照できること。
	3-3-97	受付時に当日検査と直近検査間の禁則チェックを行うことができること。
	3-3-98	禁則チェックの条件は専用の設定画面にてユーザー自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には受付処理不可にもできること。
	3-3-99	受付時、自動で受付票、依頼票、フィルム袋ラベルの出力ができること。出力するか否かは設定により変更できること。
	3-3-100	受付票、依頼票を手動で再出力できること。
	3-3-101	検査実施画面へ遷移する際に、検査開始時の確認ミスを防ぐための検査開始時チェックを行うことができること。
	3-3-102	検査開始時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザー自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査開始に進むことができないようにできること。
	3-3-103	受付時、自動で受付票、依頼票の出力ができること。出力するか否かは設定により変更できること。
	3-3-104	受付票及び依頼票を手動で再出力できること。
	3-3-105	受付票及び依頼票の印刷レイアウトを設定できること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	3-3-106	ユーザーが作成した検査項目に紐づくマニュアル参照ができること。
	3-3-107	検査ワークリストと検査実施画面を同時に表示でき、次患者の検査情報が参照できること。
	3-3-108	検査当日に時間未定であった予約検査の時間を決定した際、また予約検査の時間を変更した際、ワークリストの検査予約時間に変更を加え、新たな予約時間で並び変えできること。
	3-3-109	オーダーの新規登録ができること。
	3-3-110	造影検査時に行うルート確保の状況、ルート確保日時、ルート確保者の登録を行えること。
	検査実施機能	
	3-3-111	専用の画面により、検査の実施に必要な情報の参照、実施結果の入力ができること。
	3-3-112	検査実施画面では、以下の情報の入力・保存ができること。 (1) 検査実施日時 (2) 検査装置 (3) 検査室 (4) 実施者（技師・施行医・看護師）

		<ul style="list-style-type: none"> (5) 会計モード（会計情報送付有無の指定） (6) 実施時間帯区分 (7) 検査内容詳細（検査項目、検査詳細項目、検査条件・検査プロトコルなど） (8) RIS オーダーコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント） (9) 会計情報（使用薬剤、フィルム、手技、加算など） (10) 検像者
	3-3-113	<p>検査実施画面では以下の情報が同一画面にまとまって表示され、これらの情報は端末ごと又はユーザーごとの権限で自由に表示位置や表示／非表示を切り替えできること。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 当該検査の患者情報 (2) 当該検査と同じ患者・同じ日の他の検査の一覧（他検査） (3) 検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント） (4) 受け付けた検査の検査順（患者ナビ） (5) 当該検査のオーダー詳細・レポート参照 (6) RIS オーダーコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント） (7) 会計情報（物品手技加算情報） (8) 該当患者の全オーダー情報（検査歴・予定） (9) 実施記録（実施者や検査室） (10) 検査内容詳細（検査種、検査項目、部位、検査詳細、検査詳細条件などのリスト）
	3-3-114	検査実施画面で、検像者の入力、保存ができること。
	3-3-115	実施時間帯区分が検査実施画面表示時にセットできること。また、時間帯区分は祝祭日や曜日ごとの診療時間の違いが考慮されていること。
	3-3-116	実施者、施行医、看護師は設定で入力可能な人数の指定が行え、また、直前の検査での入力内容をデフォルト値とするか否かを設定にて指定できること。
	3-3-117	検査室は、受付時に決定した検査室、端末ごとのデフォルト検査室、直前の検査室のいずれかの指定を設定にて指定できること。
	3-3-118	検査項目には部位の判別を容易にするため、部位のイメージ画像を表示できること。
	3-3-119	検査項目の中止ができること。
	3-3-120	検査項目の変更及び追加ができること。
	3-3-121	未検査の検査項目に対してデフォルトとして設定されている検査条件、会計情報（物品、手技、加算など）が初期値として表示できること。
	3-3-122	デフォルトの検査条件は検査種、検査室、検査詳細項目、年齢、性別ごとに設定できること。

		3-3-123	デフォルトの会計情報は検査種、検査室、検査項目、年齢、性別ごとに設定できること。
		3-3-124	デフォルトの使用物品のセットを作成でき、実施時にセットを選択することにより会計情報（物品手技加算情報）の一括入力ができること。このセットは検査種ごとあるいは共通のものに分類できること。
		3-3-125	検査実施画面から、デフォルト会計情報（物品手技加算情報）マスタメンテ機能呼び出すことができ、値を登録できること。
		3-3-126	検査実施画面から、会計情報（物品手技加算情報）セットマスタ編集を呼び出すことができ、値を登録できること。
		3-3-127	検査実施画面から、デフォルト検査詳細条件メンテ機能呼び出すことができ、値を登録できること。
		3-3-128	検査条件・検査プロトコルの入力は、別ウィンドウを表示することなく、表示されているエリアに直接入力及びプルダウン選択入力ができること。入力項目により直接入力かプルダウン選択入力を設定できること。
		3-3-129	検査条件・検査プロトコルの入力は一連の入力操作をキーボードのみで行えること。
		3-3-130	会計情報の入力は一覧から自由に選択でき、一覧として表示される順番は初期値を設定、変更できること。
		3-3-131	会計情報の数量の入力はインライン入力ができること。
		3-3-132	会計情報の項目は、フィルム、薬剤、造影剤、手技、材料、放射性医薬品といった分類から選択可能で、名称による絞り込みができること。
		3-3-133	会計情報のバーコード入力ができること。また、GS1-128形式のバーコードにも対応し、ロット番号と有効期限を取り込みできること。
		3-3-134	入力中のオーダーの過去の検査情報（検査情報、検査詳細条件、各種コメント、レポート）の参照ができること。
		3-3-135	入力中のオーダーの患者の過去の検査画像やレポートを参照できること。
		3-3-136	患者の年齢を小児・大人などの分類に分けることができ、分類幅及び分類自体も設定変更できること。
		3-3-137	入力中の会計情報（物品手技加算情報）は当該画面で入力されている全てが一覧で表示できること。
		3-3-138	検査実施画面で開いている検査の患者が、検査室に呼び込んだ患者と同一であることを確認できること。
		3-3-139	検査実施完了時に未実施の検査が存在する場合、自動的に実施済で保存される動作と、検査完了ボタンが押せないような制御を行う動作を設定にて切替できること。
		3-3-140	造影検査かどうかに応じて、造影検査で造影剤が使用されていない際や、単純検査で造影剤が使用されている際に注意喚起表示がされること。

	3-3-141	検査実施完了時に、検査完了時の確認ミスを防ぐための検査完了時チェックができること。
	3-3-142	検査完了時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザー自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査完了ができないようにも設定できること。
	3-3-143	RI 検査の場合、1 件の撮像オーダーにて複数回の撮像を行う場合の運用にも対応できること。
	3-3-144	入力した内容を一時的に保存し、検査実施画面を閉じられること。
	3-3-145	入力中のオーダーに対して他システムを呼び出せること。
	3-3-146	検査詳細条件は、検査種ごとに項目を管理できること。
	核医学検査実施機能	
	3-3-147	RI 検査では、使用した放射性医薬品を選択し、会計のための請求量、記録簿用途の使用量、残量、投与日付、投与時刻の入力ができること。
	3-3-148	複数検査が有る場合には次検査の日付、時間を入力し変更できること。
	3-3-149	検査実施時に選択できる放射性医薬品やデフォルト値は、薬品管理画面で受入した放射性医薬品のみが指定可能で、使用量の初期値は検定量が表示できること。
	3-3-150	薬品登録には減衰計算ボタンを実装し、投与時刻における検定量から投与量への減衰計算をボタンで行えること。
	3-3-151	薬品登録には残量 2 % 増量ボタンを実装し、薬品残量の計算をボタンで行えること。
	検査実施（修正）	
	3-3-152	実施済の検査の実施情報を修正できること。
	3-3-153	修正した実施情報を外部システムに送信を行うか否かを画面上で選択できること。
	フィルム払出管理機能	
	3-3-154	検査ワークリストではフィルムなどの払出を管理できること。
	3-3-155	フィルムなどを持ち出した職員とその持ち出し先の登録ができること。
	3-3-156	バーコードを用いて簡便に入力ができること。
	検査照会機能	
	3-3-157	専用の画面により検索条件を指定して用途に応じた検査の検索ができること。
	3-3-158	検索条件としては、検査依頼状況、患者番号、検査種、依頼科、入外区分、病棟、検査項目、検査室、検像状況、オーダー発行日、呼び出し状況、検査予定日、検査日（日未定含むか否か、当直時間帯か否かの指定も含む）、実施者、施行医、看護師、その他の検査付随情報を指定できること。
	3-3-159	カナ患者名、病棟、診療科などで患者を検索して特定できること。

		3-3-160	リストには、患者情報、その他の患者付随情報、検査依頼情報、検査実施情報、その他の検査付随情報、各種コメント類などの表示ができること。
		3-3-161	同月に検査を行うことにより診療報酬の点数が低くなる検査の依頼が存在することがリスト上に表示されること。
		3-3-162	検査照会画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報も同一画面にまとめて表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末ごと又はユーザーごとの権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示／非表示を切り替えられること。 (1) 当該検査の患者情報 (2) 当該検査のオーダー詳細・レポート参照 (3) RIS オーダーコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント） (4) 検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）
		3-3-163	検査実施情報の修正機能呼び出しができること。
		3-3-164	選択行のオーダーに対して、画像システムを呼び出しができること。
		3-3-165	選択行のオーダーに対して、他システムを呼び出しができること。
		3-3-166	選択行のオーダーに対して、患者コメント、当日コメント、RIS オーダーコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント）の表示、入力ができること。
		3-3-167	選択行のオーダーに対して、依頼票の出力ができること。
		3-3-168	選択行のオーダーの患者の検査歴及び検査予定を参照できること。
		放射性医薬品管理機能	
		3-3-169	登録された放射性医薬品の一覧を表示できること。
		3-3-170	放射性医薬品の新規登録、編集、削除ができること。
		3-3-171	放射性医薬品の返品処理、廃棄処理、一括受入機能の呼び出しができること。
		放射性医薬品調製管理機能	
		3-3-172	放射性医薬品の投与予定日、あるいは発注予定日を検索条件として、核医学検査オーダーの一覧を表示できること。
		3-3-173	一覧表示された核医学検査オーダーには予め指定のデフォルトの薬品及び使用量や請求量の割当がされており、登録ボタンにより確定できること。また、設定により、起動時のデフォルト割当は行わない動作もできること。
		3-3-174	一覧表示された核医学検査オーダーには手動で使用予定の薬品を一覧から割当できること。また、使用量や請求量も手入力できること。
		3-3-175	一括発注機能では、登録済の放射線医薬品の一覧に対して発注数量の入力ができること。

	3-3-176	溶出、調製機能では、溶出量 (MBq)、溶出液量 (mL) を指定してミルキングができること。標識キットを使用してラベリングができること。生じる残量の廃棄処理ができること。
	3-3-177	検定日時と廃棄日時から残放射エネルギーを計算し登録する機能を有すること。
	廃棄容器管理機能	
	3-3-178	廃棄容器の一覧を表示できること。
	3-3-179	廃棄容器は、登録／開缶／封缶／引渡の状態管理を行うことができること。
	3-3-180	廃棄容器は、可燃／難燃／不燃／液体の種別を扱うことができること。
	放射性医薬品帳票機能	
	3-3-181	核種別、日別に使用量を集計し、一日最大使用量との比較可能な「放射性医薬品使用統計 (日別)」、3月間最大使用量・年間最大使用量との比較可能な「放射性医薬品使用統計 (月別)」を出力できること。
	3-3-182	日本アイソトープ協会推奨様式に準じた「放射性医薬品使用記録簿」を出力できること。
	帳票共通機能	
	3-3-183	専用の画面により帳票種類、出力条件を指定して帳票を出力 (印刷、プレビュー) できること。
	検査予定表出力機能	
	3-3-184	検査日、検査種又は検査室、入外区分、病棟を指定して検査予定表を印刷できること。
	3-3-185	印刷レイアウトを設定できること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	照射録出力機能	
	3-3-186	検査日、検査種を指定して照射録を印刷できること。
	3-3-187	照射録は複数の検査を一覧で出力するサマリ形式での出力ができること。
	3-3-188	検査実施日時、依頼医での出力順を指定できること。
	被ばく線量レポート出力機能	
	3-3-189	患者番号、検査日、検査種、検査部位などを指定して出力できること。
	3-3-190	被ばく線量及び検査実施時に入力した各種 RIS コメント、検査条件などを印刷できること。印刷する項目は、印刷時に指定できること。
	3-3-191	印刷レイアウトを設定できること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	各種出力機能	
	3-3-192	印刷レイアウトは A4 又は A5 サイズに設定でき、印刷できること。
	検査統計データ抽出機能	

	3-3-193	専用の分析画面によりシステムで扱うデータを自由に組み合わせてデータの集計ができること。
	3-3-194	出力する項目はユーザーにて画面上で指定できること。
	3-3-195	対象の期間（From と To） やその他の条件、分析項目（ディメンジョン）、分析値（メジャー）の組合せを自由に選択できること。
	3-3-196	出力する項目や検索条件は保存して再利用できること。
	3-3-197	検査業務分析ができ、標準的なテンプレート（次項記載のデータ抽出テンプレート機能）が存在すること。
	3-3-198	既存の統計テンプレートの移行を行うこと。又は同等のテンプレートを作成すること。
	3-3-199	分析結果は Excel 形式の数値データ、グラフ（棒グラフ）でのファイル出力できること。
	3-3-200	検査項目を分析用に分類分けでき、各統計にて分析用分類ごとの集計値が出力できること。分類は複数パターン使用できること。
	3-3-201	未加工のデータ取り出しもできること。
	検査統計 Excel 統計機能	
	3-3-202	分析条件に対して帳票レイアウトが組み込まれた Excel ファイルを指定し、Excel による統計帳票を出力できること。
	部門コミュニケーションお知らせチャイム機能	
	3-3-203	指定された条件に該当する検査が存在する場合、音声によりユーザーに通知ができること。音声は条件に該当する検査が存在する間、鳴り続けるが、ユーザーが画面上で一時的に音声を停止できること。
	掲示板機能	
	3-3-204	部内への連絡事項を掲示できること。
	3-3-205	掲示板に表示させる文章は、記入画面よりユーザーが入力、削除できること。また、入力、削除の可能なユーザーを権限で制御できること。
	3-3-206	掲示板の本文の文字修飾、色の指定ができること。
	3-3-207	掲示板の本文の表示／非表示ができること。
	ファイル共有機能	
	3-3-208	マニュアル・ヘルプなど、部門内で共有したいファイルを登録できること。
	3-3-209	共有ファイルはユーザーが簡単に追加、削除できること。
	マスタ別メンテ機能	
	3-3-210	メンテナンスを行うマスタごとに、メンテナンスに適したメンテナンス画面が用意されていること。

	3-3-211	診療日のマスタのメンテナンス画面はカレンダー形式で表示され、カレンダー上から日付を選択することにより設定できること。
	3-3-212	マスタのインポート、エクスポートができること。ファイル形式はExcel形式、CSV形式に対応していること。
	目的別マスタメンテ機能	
	3-3-213	マスタ変更の目的からマスタのメンテナンスを行えること。
	3-3-214	マスタ変更の目的を選択により変更内容の変更手順が表示され、表示された手順に従ってマスタの変更を行うことにより、正しい順序で修正漏れのないマスタメンテナンスを行えること。
	3-3-215	変更手順の説明文のリンクから、対象のマスタのメンテナンス画面を起動できること。
	システム連携機能	
	3-3-216	上位システムより患者情報、オーダー情報を受信できること。また、これらのシステムに対して受付情報、検査実施情報を送信できること。
	3-3-217	最新の入外情報を受信した際には、患者の最新の情報及び未実施検査の入外情報の更新を行い、検査時に適切な情報を参照できること。
	3-3-218	レポートシステムに対して患者情報、オーダー情報、検査実施情報、検査実施時における HIS/RIS コメントなどが送信できること。また、レポートシステムよりレポート確定通知情報を受信できること。
	3-3-219	画像管理システムに対して患者情報、オーダー情報、検査実施情報を送信できること。また、画像管理システムより画像到着通知情報を受信できること。
	3-3-220	患者情報や患者移動情報を受信した場合、速やかにその情報を外部システムに送信できること。
	3-3-221	検像システムより検像ステータスを受信できること。
	3-3-222	検像システムにオーダー情報、職員マスタ情報を提供できること。
	3-3-223	上位システムの体内金属や感染症などのコメントを受信し、表示できること。
	3-3-224	他部門の検査予約状況を受信し、表示できること。
	障害検知	
	3-3-225	他システムとの連携 IF の死活監視を行い、障害発生時にはイベントログへ障害内容のメッセージが出力されること。
	モダリティ接続機能	
	3-3-226	DICOM MWM/MPPS による撮影装置との接続ができること。
	3-3-227	モダリティ接続時に、モダリティへの情報送信時の確認ミスを防ぐためのモダリティ接続時チェックを実施できること。
	3-3-228	モダリティ接続時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザー自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェッ

			ク条件に該当した場合にはモダリティへの情報送信ができないようにもできること。
	3-4	3D画像解析システム	
		全般	
		3-4-1	納入時において最新バージョンの製品をインストールすること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
		3-4-2	シンスライスデータについては、任意の期間保存後に自動消去できること。期間など詳細については、当院担当者と別途協議すること。
		3-4-3	3D画像解析のソフトウェアは、全てのレポートシステム読影端末にインストールし、RIS 端末及び電子カルテ端末は当院担当者と協議し、必要数をインストールすること。 インストールされた端末には、それが分かるように表示をつけること。
		3-4-4	サーバー上のデータを匿名化し、当院が指定するネットワーク上の共有フォルダに保存できること。
		3-4-5	DICOM プリンター、Windows プリンターへの印刷機能を有すること。
		3-4-6	ライセンスの追加なしに全ての画像配信用ビューワーから起動することができ、同様の3D処理及び解析作業が行えること。
		3-4-7	当院指定の端末から起動できること。また画像配信用ビューワーからの起動においては、患者を選択することなく起動できること。
		3-4-8	画像配信用ビューワーのサムネイル上に3D画像解析システムのデータもサムネイル表示できること。
		3-4-9	既存3D画像解析システムで利用しているテンプレートやマクロ機能などの設定を移行すること。移行できない場合は、その代案を当院担当者へ提示し、別途協議すること。
		3D画像処理	
		3-4-10	外部のDICOM 機器からの画像入力、出力、他のDICOM 機器内の画像データの検索、取得ができること。
		3-4-11	study、series レベルでの一覧表示ができ、患者氏名、患者番号、モダリティ、検査部位での検索機能を有すること。
		3-4-12	表示した2D・3D画像をJPEG、Bitmap、PNG、DICOM、AVI、MPEG、MP4、WMV の形式で保存できること。
		3-4-13	操作とリンクしたオンラインヘルプ機能を有し、文書内及びページ内検索の両方ができること。
		3-4-14	VR、SSD、MIP、MINIP、レイサム、SMIP、仮想内視鏡表示、CPR 表示ができること。
		3-4-15	表示されている3DVR やMPR カラーに対し、カテゴリ内の全てのテンプレートをプレビュー表示し、一覧で表示可能な機能を有すること。

	3-4-16	断面、視線、球体などでの表示範囲クリップ機能を有し、その表示範囲の抽出、削除ができること。
	3-4-17	骨除去、肝臓抽出、骨抽出、骨頭分離がワンクリックで可能な機能を有すること。
	3-4-18	脳血管の動静脈分離ができること。
	3-4-19	MPR 作成時、同時に 8 シリーズ以上を読み込み、全て同じ位置、方向で MPR を作成できること。
	3-4-20	同時に複数シリーズを読み込み、全ての 3 D 画像の自動位置合わせができること。また、フュージョン表示できること。
	3-4-21	自動骨除去機能を有すること。
	3-4-22	各種解析作業状態を途中保存し、後から復元できること。
	3-4-23	3 D 画像自体に影の写しこみ（セルフシャドウ）ができること。
	3-4-24	読み込んだ画像の信号値に合わせたオパシティカーブを自動で設定する機能を有すること。
	3-4-25	キャプチャした画像をプレビューでき、編集（アノテーション追記など）ができること。
	3-4-26	マスクの同時表示は 10 個以上できること。
	3-4-27	CT 体脂肪測定ソフトウェアを有し、皮下脂肪と内臓脂肪を自動認識してカラー表示し、BMI も算出できること。
	心臓 CT 解析ソフトウェア	
	3-4-28	自動又は手動による心臓抽出、冠動脈抽出ができること。
	3-4-29	各冠動脈の輪郭は抽出後、外径と同時に石灰化をはずした内径を自動表示する機能を有すること。
	3-4-30	冠動脈を VR 画像、SMIP、アンギオでの表示、大動脈の表示／非表示をワンクリックで変更できること。
	3-4-31	抽出した冠動脈枝の支配領域を計算する機能を有し、それをブルズアイ表示できること。
	3-4-32	作成した冠動脈の 3 D 画像を利用したまま、その表面に CT の心機能解析のブルズアイ画像をマッピングできること。
	3-4-33	CT 心臓シネ画像を用いて心機能を評価するソフトウェアを有し、以下の機能を備えていること。
	3-4-34	自動又は手動による心臓抽出機能を有すること。
	3-4-35	心室、心房、大動脈弁を観察する断面を自動で設定できること。
	3-4-36	心臓中心軸をスライスごとに設定できること。
	3-4-37	短軸、長軸両方向から輪郭の修正ができること。

	3-4-38	心室輪郭の表面に各ブルズアイをマッピングして3Dのサーフェス表示ができること。
	3-4-39	心機能の評価に用いた画像を用いて、引き続き冠動脈の評価を行うソフトウェアが起動できること。
	3-4-40	石灰化スコアを算出するソフトウェアを有し、以下の機能を備えていること。
	3-4-41	自動又は手動による心臓抽出機能を有すること。
	3-4-42	血管ごとのプラーク数、体積（面積）、Agatstonスコア、平均CT値、最大CT値の算出ができること。
	3-4-43	3Dで石灰化の指定ができること。
	3-4-44	スコアリングの結果をCSVファイルに出力できること。
	Tx マッピングソフトウェア	
	3-4-45	各画像からTx mapを計算後、カラーマップ表示できること。
	3-4-46	計算後の画像はROIをとることで各値を計測できること。
	3-4-47	ROI部分の信号値変化のグラフを表示できること。
	膝関節解析ソフトウェア	
	3-4-48	MRの3D画像から骨、軟骨、半月板を自動抽出できること。
	3-4-49	軟骨の厚みをカラーマップ表示できること。
	3-4-50	軟骨の欠損の面積を計測できること。
	テンソル解析ソフトウェア	
	3-4-51	MRの画像を使用して神経線維の抽出ができること。
	3-4-52	ROIを移動すると追従してリアルタイムに線維を抽出する機能を有すること。
	3-4-53	入力画像同士の位置合わせができること。
	3-4-54	描出された神経線維の画像とCT画像との3Dでの重ね合わせができること。
	2Dフロー解析ソフトウェア	
	3-4-55	ROIの速度情報をグラフ表示できること。
	3-4-56	ROI内の平均流速、容量、逆流率が計測できること。
3-5	検像システムソフトウェア	
	3-5-1	既存検像システム「i-Rad QA」に設定されている各種設定を全て引き継ぎ、ユーザーが意識することなく新システムに移行できること。
	3-5-2	既存検像システム「i-Rad QA」で管理されているデータベース内や、設定情報を含めて稼働までに完全移行すること。移行に関わる費用も含めること。
	3-5-3	DICOM Storage Service ClassのSCP機能を有し、DICOM画像発生装置から出力される画像を保存・管理する機能を有すること。
	3-5-4	受信した画像をサムネイル表示順にリスト表示できる機能を有すること。

		3-5-5	同一画像 (Study Instance UID、Series Instance UID、SOP Instance UID が同一) を受信した際に、その画像を上書きすること。
		3-5-6	受信した画像を患者番号、検査番号、モダリティ種別、検査日、画像発生元 AE タイトルの項目にて検索する機能を有すること。
		3-5-7	画像送信時に検査単位及びシリーズ単位にて指定できる機能を有すること。
		3-5-8	自動送信時のみ、受信した画像の DICOM ヘッダー情報を判断し、複数のサーバーに分配する機能を有すること。
		3-5-9	受信した画像を自動的に送信する／しないをユーザーが設定する機能を有すること。
		3-5-10	受信した画像を自動的に送信する際、モダリティごとに自動送信する／しないを設定する機能を有すること。
		3-5-11	受信した画像を自動的に送信する際、画像滞留時間をユーザーが変更できる機能を有すること。
		3-5-12	シリーズ番号再発番と同時にイメージ番号を再発番する機能を有すること。
		3-5-13	患者名、患者番号、性別など、装置側で入力間違いのあった DICOM ヘッダー情報を自動及び手動で修正する機能を有すること。
		3-5-14	DICOM Modality Worklist Service Class の SCU 機能を有し、MWM 通信にて取得した情報を利用して手動及び自動で DICOM ヘッダー情報を修正する機能を有すること。
		3-5-15	マウスにて画像の WL/WW 調整する機能を有すること。モダリティごとに部位別プリセット値の設定、自動 WL/WW 調整機能を有すること。さらに調整された WL/WW 値は保存できること。また、直接 WL/WW を入力できること。調整時のマウスの感度については簡単に変更できる機能を有すること。
		3-5-16	画像サムネイルのドラック&ドロップ及び昇順/降順指定により、画像の並び順 (Image Number) を変更する機能を有すること。
		3-5-17	一覧上でのドラック&ドロップによりシリーズの並び順 (Series Number) を昇順及び降順にて変更する機能を有すること。
		3-5-18	シリーズの並び順 (Series Number) を変更する際、複数シリーズを同時に変更できること。
		3-5-19	画像の DICOM ヘッダーを利用してシリーズ中の画像並び順を自動で修正する機能を有すること。
		3-5-20	同一患者における、検査シリーズを結合/分割する機能を有すること。
		3-5-21	画像の DICOM ヘッダーを利用してシリーズを自動的に分割する機能を有すること。
		3-5-22	受信した画像を修正したかどうかを一覧できる機能を有すること。
		3-5-23	画像修正 (DICOM タグ範囲) が行われた際、修正内容は全てログに記載されること。また、修正理由などのコメントを残す機能があること。
		3-5-24	DICOM Print Service Class の SCU 機能を有し、受信した画像をプリントできること。

		3-5-25	画像ビューワー機能にある、あるコマ以降の WW/WL を一括して修正できること。
		3-5-26	標準で表示されるタグ一覧に造影剤のタグなどを追加できること。また、プルダウンで選択できること。
		3-5-27	AE タイトルごとに Series Description を自動で修正できること。
		3-5-28	画像ビューワー機能にある、画像表示コマ数を任意に表示できること。
		3-5-29	確認画面が表示されることなく、「すぐに転送」 ボタンを設定できること。
		3-5-30	画像サーバーへ QUERY/RETRIEVE できること。
		3-5-31	受信した画像サムネイル表示を行った時に表示されるシリーズリストの数は、最大で 25 シリーズ以上であること。
		3-5-32	画像をタイル表示した際、ユーザーで任意の分割数を選択できること。
		3-5-33	シリーズ表示の際、検査情報（患者番号、患者氏名、検査番号、シリーズ記述、検査部位、造影剤など）と画像が並列で表示されること。
		3-5-34	検像途中の画像の送信を保留する機能があること。
		3-5-35	タグ項目の表示幅は、ユーザーが任意に変更できること。
		3-5-36	検査情報の修正に使用する定形の文字列（シリーズ記述など）は、ユーザーが任意に作成でき、プルダウン表示の設定もできること。
		3-5-37	発番修正した順番で画像ビューワー上に表示できること。
		3-5-38	画像取込みは、特定の権限のユーザーのみが行えること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
		3-5-39	確定保存の責任者の記録、管理ができること。
		3-5-40	バーコードリーダーを有し、RIS の検査依頼票から患者番号及び検査番号を読み取れること。
		3-5-41	受信した画像が持つ任意の DICOM タグ情報（例：S 値や DI 値など）を画像ビューワー上で表示できること。
		3-5-42	画像のリファレンス線を表示/非表示する機能を有していること。また画像番号が表示されること。
		3-5-43	事前設定を行なった条件に沿って、シリーズの並び順、イメージの並び順を自動的にこなう機能を有していること。
		3-5-44	画像発生装置で貼り付けられたアノテーションなどの表示ができること。
	3-6	遠隔画像参照システム	
		3-6-1	取り扱えるモダリティ種ごとに「リストの表示順」、「リストの背景色」、「検査画像取り込み時の解像度、画質設定」、「検査単独表示、検査比較表示時の表示レイアウト（リーディングプロトコル）」、「検査画像の表示階調のプリセット」が設定できること。
		3-6-2	ユーザー登録などは特定の管理者ユーザー自身で設定を登録編集できること。

		3-6-3	指定するユーザーを削除できること。
		3-6-4	PACS やモダリティなどに接続してクライアント端末から QUERY/RETRIEVE できる機能を有すること。
		3-6-5	接続する PACS から画像を自動的に取り込む機能を有すること。
		3-6-6	接続する PACS に登録されている検査、又は DICOM 受信した検査の条件を指定して、検索できること。
		3-6-7	検査結果が一意に特定されたときは、画像ビューワーを直接表示すること。
		3-6-8	検査を患者番号、患者氏名、モダリティ、検査日（期間指定も含む）、その他識別可能な番号の組合せで検索できること。
		3-6-9	検査を検索する日時、期間のデフォルト表示を設定できること。
		3-6-10	接続する PACS に登録されている検査、又は DICOM 受信した検査の一覧をリスト表示できること。
		3-6-11	検査リストの表示件数の上限を変更できること。
		3-6-12	検査リストには、サムネイル画像、グループ名、患者番号、患者名、性別、生年月日（年齢）、モダリティ、画像枚数、検査記述、その他識別可能な番号、検査日時を表示できること。
		3-6-13	同時に構築される PACS と接続する場合は、検査リストに病棟、主治医、入外区分、依頼科、依頼医を表示できる機能を有すること。
		3-6-14	検査リストを患者番号、患者名、モダリティ、検査日時で2段階ソートでき、その設定を保存できること。
		3-6-15	同時に構築される PACS と接続する場合は、検査リストを病棟、主治医、入外区分、依頼科、依頼医で2段階ソートでき、その設定を保存できる機能を有すること。
		3-6-16	検査の一覧から検査を選択して、当該検査の画像を表示できること。
		3-6-17	シリーズ一覧画面により、シリーズ画像をリスト表示できること。
		3-6-18	シリーズ一覧画面の表示は、タップにて表示できること。
		3-6-19	シリーズ一覧画面からの検査画像の表示は検査画像のダブルタップか表示領域へのドラッグ&ドロップでできること。
		3-6-20	シリーズ一覧画面から表示する画像を選択後、シリーズ一覧画面のリスト表示を自動で閉じるかどうかユーザーごとに設定できること。
		3-6-21	シリーズの切替えができ、かつ画像領域に表示されているシリーズ画像で1up 表示されている場合は、ダブルクリックなど簡便な方法でシリーズを切り替えできること。
		3-6-22	シリーズの画像をタイル表示できること。
		3-6-23	シリーズをドラッグ&ドロップ及びタップすることで任意のフレーム上に配置して表示できること。
		3-6-24	シリーズをスタック表示できること。

		3-6-25	クライアント端末側で患者情報の表示／非表示を切り替えられること。
		3-6-26	患者情報の表示／非表示の設定と、その機能の使用可否をユーザーごとに設定できること。
		3-6-27	選択したフレームに表示されたシリーズ画像に対して、リファレンス線を表示する条件を満たすシリーズの画像上にリファレンス線を表示できること。
		3-6-28	リファレンス線は、先頭画像（点線）／最終画像（点線）／表示画像（実線）の位置に表示すること。
		3-6-29	ドラッグ&ドロップでシリーズの位置を入れ替え、移動、複製できること。
		3-6-30	モバイル型クライアント端末の場合、スライスの位置を、ページングボタン、スライダーバー、画像表示領域上で上下にドラッグ／フリックしてページングできること。
		3-6-31	シリーズ連携する場合は、以下の画像操作に対して連携ができること。 (1) ページング (2) 拡大・移動 (3) 階調・画像処理 (4) 回転・反転
		3-6-32	選択されている検査の患者の過去の検査とシリーズ連携で比較表示できること。
		3-6-33	注目点を中心に画像を拡大できること。
		3-6-34	画像の回転・反転ができること。
		3-6-35	画像の階調をドラッグ／フリックで変更でき、その変化量をユーザーごとに設定できること。
		3-6-36	画像の階調を変更する際、WC／WWそれぞれ1つずつ変更できること。
		3-6-37	画像表示領域をドラッグして画像を移動（パン）できること。
		3-6-38	CT／MRI 画像上の任意の2点間の距離を計測できること。
		3-6-39	シネ表示（再生・停止・コマ送り・コマ戻し）ができること。
		3-6-40	シネ再生の速度を変更できること。
		3-6-41	画像を初期表示の状態に戻すことができること。
		3-6-42	画像に関する DICOM 情報を表示できること。
		3-6-43	画像表示領域のレイアウトを変更できること。
		3-6-44	画像表示領域の各フレーム内に検査識別マーク、ページ番号・総画像数、拡大率、階調（WC／WW）、スライス位置、スライス厚、オリエンテーションマーカをオーバーレイ表示でき、かつオーバーレイの表示／非表示が切り替えできること。
	3-7	胸部画像診断支援システム	
		3-7-1	胸部画像診断支援システムは、当院施設内への備付けをすること。
		3-7-2	既存画像処理ユニット(Console Advance) 2台、移動型デジタルX線撮影装置(CALNEO AQRO) 1台の画像をそれぞれ受信し、画像の解析結果を指定送信先へ自動送信できること。

	3-7-3	PACS へ送信された解析結果画像を画像配信用及び読影医用ビューワーで参照できること。 また、画像配信用ビューワーを展開した時に解析結果がサムネイル画像上などで確認できないように、マスク処理などがされていること。
	3-7-4	解析対象検査を自動で画像診断ソフトウェアの解析にかけることができ、解析処理は自動的に実行されること。
	3-7-5	任意の検査を手動で解析をかけることができること。
	3-7-6	解析結果は、DICOM 形式として保存できること。
	3-7-7	Deep Learning 技術を用いて設計された胸部X線画像病変検出機能を用いて胸部X線画像の異常所見が疑われる領域を表示できること。ソフトウェアは医療機器の承認を得ていること。
	3-7-8	対象所見は、結節腫瘤影、浸潤影、気胸に対応できること。
	3-7-9	検出領域候補領域の確信度の最大値を数値表示できること。
	3-7-10	以下の画像条件を対象とすること。 (1) 画像種類：胸部X線画像（正面像） (2) 撮影部位：胸部（正面） (3) 撮影体位：立位・座位・臥位（AP/PA） (4) 対象患者：成人
3-8	診療情報統合管理・参照システム	
	前提条件	
	3-8-1	統合診療支援システムは、電子カルテシステム、各部門システムの画像・レポートなどを一元的に管理し、時系列をはじめとする各種の参照方法を有するシステムであること。
	3-8-2	統合診療支援システムで管理する画像・レポートなどを対象に患者単位で、タイムライン表示、サムネイル表示、レイアウト表示、検査リスト表示、入院患者時系列表示の表示機能を有すること。
	3-8-3	表示機能から、さらに詳細にデータ内容を確認する為のデータ参照機能を有すること。
	3-8-4	電子カルテシステムと連携し、患者基本属性などの取得ができる機能を有すること。また、電子カルテからの起動の際、患者番号や利用者 ID の受け渡しを行い、シングルサインオンができる機能を有すること。
	3-8-5	診療科又は利用者個人設定で表示可能な画像・レポートの組合せを登録できる機能を有すること。
	3-8-6	将来的に他システムや検査機器との接続が検討された際は、当院及び当院担当ベンダーとも協議の上、接続を可能とすること。また、その際の費用は別途協議すること。
	電子カルテシステム連携機能	

	3-8-7	電子カルテシステムとの患者基本情報の連携機能を有すること。
	3-8-8	電子カルテシステムとの利用者情報の連携機能を有すること。
	3-8-9	電子カルテシステムとの職種情報の連携機能を有すること。
	3-8-10	電子カルテシステムとの検体検査結果の連携機能を有すること。
	部門システム連携機能	
	3-8-11	PACS と検査情報を連携し、検査番号など検査指定にて画像配信用ビューワーを起動する機能を有すること。
	3-8-12	レポートシステムと連携し、検査番号など検査指定にて画像診断レポートなど参照ビューワーを起動する機能を有すること。
	タイムライン表示機能	
	3-8-13	タイムライン機能では、横軸に時間軸、縦軸に検体検査、画像・レポートをマトリックス形式で配置することで時系列に診療データの発生状況を俯瞰、参照できる機能を有すること。
	3-8-14	タイムラインの時間軸は、カレンダー日付単位、画像・レポートの存在する日付単位、履歴単位（最新、1回前、2回前など）の表示切替え機能を有すること。
	3-8-15	画像・レポートの発生分布を月ごとにグラフ化して表示するタイムラインバー機能を有すること。
	3-8-16	電子カルテシステムとの連携により取得した検体検査結果データを時系列に表示する機能を有すること。
	3-8-17	検体検査結果データは指定検査項目を折れ線グラフで表示する機能を有すること。
	3-8-18	指定の検体検査結果データ項目を選択する事により、該当日付の全検査結果を参照できる機能を有すること。
	3-8-19	マトリックス上に画像及びレポートボタンを表示し、ボタン選択により、該当情報を拡大表示できる機能を有すること。
	3-8-20	マトリックス上の画像・レポートを複数選択し、比較表示ができる機能を有すること。
	サムネイル表示機能	
	3-8-21	統合診療支援システムで管理するデータ（画像）を対象として、患者単位に、その患者と関連するデータ（画像）を一覧表示する機能を有すること。
	3-8-22	一覧表示では、データ単位、データ発生日単位、データ種別単位で分類・並び替えができる機能を有すること。
	3-8-23	一覧表示の際、データの種別が識別できるよう、サムネイル形式で表示する機能を有すること。またサムネイルの大きさは、スライダーにて自由に拡大・縮小ができる機能を有すること。
	3-8-24	サムネイルをダブルクリックして指定する事により、指定したデータを、後述のデータ参照機能に展開できる機能を有すること。

	3-8-25	一覧表示されるデータを、データ種別や検査種別で絞り込む機能を有すること。
	検査リスト表示機能	
	3-8-26	画像・レポートをリスト表示できる機能を有すること。
	3-8-27	日付、未読、種別、履歴、診療科、入外、詳細、レポートの有無の各条件を設定し、リストを絞り込み表示できる機能を有すること。
	3-8-28	シリーズの一覧を表示できる機能を有すること。
	3-8-29	検査リストにサムネイルの一覧を表示できる機能を有すること。
	3-8-30	同一オーダーの検査が存在する場合、それらを関連付けて表示する機能を有すること。
	3-8-31	複数の異なる検査種別、文書種別などの組合せをセット登録し、セット選択することでリストデータを絞り込み表示できる機能を有すること。また、絞り込み表示を行うとサムネイル表示機能も絞り込まれる機能を有すること。
	3-8-32	リストの表示、非表示を切り替えできる機能を有すること。
	レイアウト表示機能	
	3-8-33	様々な診療プロセスの場面ごと（入院時、術前、術後、退院時、外来フォローなど）に、複数の画像、レポート、電子カルテ連携情報の組合せをレイアウト表示機能にてセット登録し、当該場面に必要な情報を迅速に参照できる機能を有すること。
	3-8-34	複数の画像・レポート及び電子カルテ連携情報を表示する枠を、2×1、2×2、4×4などの均等分割の他、2×3などの不均等分割も含めて自由に配置でき、同時に複数のデータ種別や複数の過去データとの比較表示が容易にできるレイアウト表示機能を有すること。
	3-8-35	レイアウト表示機能は、レイアウトセット名称を付与して利用者別、診療科別に設定できる機能を有すること。
	3-8-36	レイアウト表示機能は、レイアウト別に複数のタブに表示できる機能を有すること。
	3-8-37	利用者ごとに起動する際に表示されるデフォルトのレイアウトを、システムの既定値とは別に指定できること。
	3-8-38	電子カルテシステムや部門システムからレイアウト指定で該当のレイアウト表示機能呼び出す機能を有すること。
	既読管理・基本機能	
	3-8-39	部門システム連携機能にて連携される画像診断レポート及び病理診断レポートなどを既読管理の対象とできる機能を有すること。
	3-8-40	PACSの検査画像を、既読管理の対象にできる機能を有すること。
	3-8-41	タイムライン表示機能に既読対象データの未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。
	3-8-42	レポートが未作成の画像検査も表示し、レポートがないことを利用者が把握できる機能を有すること。

		3-8-43	未読状態は、検査依頼医師自身が依頼した検査とそれ以外の検査を区別してアイコン表示できる機能を有すること。
		3-8-44	他科が依頼した検査の未読状態を自科の検査と区別してアイコン表示できる機能を有すること。
		3-8-45	部門システム連携機能にて連携されるレポートシステムより、重要フラグを受け取り、重要レポートとして登録できる機能を有すること。
		3-8-46	重要レポートの場合、重要フラグのない通常レポートとは区別して未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。
		3-8-47	既読後にレポートの改版が行われた場合は、未読の改版レポートとしてアイコン表示できる機能を有すること。
		既読管理・通知機能	
		3-8-48	電子カルテシステムの利用者ログオン完了時に未読データがある場合、本システムのボタン操作することなく、利用者へポップアップ画面にて通知できる機能を有すること。
		3-8-49	重要レポートが到着した場合、検査依頼医師にリアルタイムで通知できる機能を有すること。その場合、本システムを起動している状態でなくとも、通知を受信できる機能を有すること。
		3-8-50	通知画面から、直接対象レポートを表示できる機能を有すること。
		3-8-51	通知画面から、未読レポートの一覧を表示できる機能を有すること。
		3-8-52	電子カルテシステムにログオンしていない時に通知が送信された場合は、次回電子カルテのログオン完了時に、未表示の通知が全て表示できる機能を有すること。
		3-8-53	未読の通知を行う場合、対象レポート確定後7日間など、一定期間経過しても未読の状態であるデータのみをまとめて通知できる機能を有すること。期間については、施設の運用に合わせて変更できる機能を有すること。
		3-8-54	過去に通知された通知メッセージ履歴一覧を表示できる機能を有すること。
		3-8-55	電子カルテシステムにて対応が可能な場合、患者カルテ起動時に該当患者のレポート未読状態を通知できる機能を有すること。
		3-8-56	操作者が再通知日を指定することで、患者来院などに合わせ、通知の再通知ができる機能を有すること。
		既読管理・既読操作	
		3-8-57	操作者の職種により、既読操作者を制限できる機能を有すること。
		3-8-58	操作者の職種により、既読状態表示対象者を制限できる機能を有すること。
		3-8-59	未読レポートの既読宣言を利用者が行う場合、能動的操作にて既読にできる機能を有すること。
		3-8-60	既読後のレポートを、利用者の操作で未読に戻すことができる機能を有すること。ただし、未読に戻すことができるのは、自身が既読にしたレポートであること。

		3-8-61	レポート参照時に既読操作を行うことなく、自動的に既読にできる機能を有すること。
		3-8-62	レポートの確認を行った結果を、既読コメントとして登録できる機能を有すること。
		3-8-63	検査依頼医師自身でレポートを作成した場合は、該当レポートを自動的に既読にできる機能を有すること。
		3-8-64	研修医が既読操作を行った場合、それだけでそのレポートが既読として登録されずに、その研修医の指導医が既読操作を行うことで、既読として登録できる機能を有すること。
		3-8-65	研修医が既読操作を行った場合、その研修医の指導医に対して通知を送信できる機能を有すること。その際、研修医に対するコメントを表示できる機能を有すること。
		3-8-66	検査依頼医師自身の既読操作時に、主治医など他医師への既読依頼ができる機能を有すること。その場合、依頼された医師に通知を行うことができ、既読依頼コメントを表示できる機能を有すること。
		3-8-67	レポート参照画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択する機能を有すること。
		既読管理・既読ワークリスト	
		3-8-68	既読管理対象のデータを検索してリストに表示することができる既読ワークリスト機能を有すること。検索条件として、データの種別、未読／既読状態、作成日、作成日からの日数、検査種、患者番号、患者名、検査日、レポート作成者、既読者、既読日時などの条件を指定できる機能を有すること。
		3-8-69	よく使う検索条件（利用者自身の依頼分のみ、自科のみ、自科未読14日超え、全科未読14日超えなど）については、検索プリセットとして保存し、検索プリセットメニューから検索できる機能を有すること。
		3-8-70	既読ワークリスト機能の検索結果として、検査種、重要フラグ、レポート版数、依頼科、依頼医、未読／既読状態、既読操作者、既読時刻、既読コメントを一覧表示できる機能を有すること。
		3-8-71	既読ワークリストから指定のレポートを参照できる機能を有すること。
		3-8-72	管理者権限にて既読ワークリストの内容をCSV出力できる機能を有すること。
		3-8-73	レポートに複数の既読対象者が設定されている場合、それぞれの既読対象者ごとの未読／既読状態や、既読にした操作者の操作者名、既読時刻を表示できる機能を有すること。
		3-8-74	複数のレポートを選択して、既読対象者を一括で変更できる機能を有すること。
		3-8-75	対象のレポートに既読対象者が複数設定されており、またその未読／既読状態が未読の場合、その既読対象者の削除ができる機能を有すること。
		3-8-76	対象のレポートに、既読対象者を追加する機能を有すること。その際、追加する既読対象者に対するコメントを登録できる機能を有すること。

		3-8-77	既読対象者の追加・変更・削除を行うことができる利用者は、管理者又はそのレポートを依頼した医師に制限できる機能を有すること。
		3-8-78	管理者権限にて、対象レポートの既読状態を変更できる機能を有すること。既読状態を変更する際に、変更理由などを合わせて登録できる機能を有すること。

4	その他		
	4-1	既存電子カルテシステムの連携	
		4-1-1	今回導入する PACS、レポートシステム及び RIS は、既存電子カルテと連携した際に電子カルテシステムの運用に影響が出ないように電子カルテメーカー担当者と綿密に打合せを行うこと。
	4-2	PACS/RIS/レポートシステム/3D画像解析システムからのデータ移行	
		4-2-1	既存のサーバーで管理されている画像データ、レポートデータなどを稼働までに全て移行すること。
	4-3	既存整形外科計測ソフトウェア OP-A との連携	
		4-3-1	既存「整形外科計測ソフトウェア OP-A」との連携ができること。また、ユーザーが意識することなく新システムに移行できること。できない場合は、「整形外科計測ソフトウェア OP-A」同等品を導入し PACS と連携させること。なお、それに伴い発生する費用については納入業者側の負担で行うこと。
	4-4	既存検査オンライン予約システム (C@RNA Connect) のハードウェア更新	
		4-4-1	クライアント端末としてノート型 PC を 2 台用意し、当院が指定する場所に設置すること。下記相当の性能を有すること。 (1) OS は Windows Server IoT 2019 Standard 以上であること (2) CPU は Intel Core i3-1315U 以上であること (3) メモリは 8 GB (DDR4 3200 MHz Non-ECC SDRAM) 以上であること (4) Storage 容量は M.2 256GB PCIe NVMe Class 35 SSD 以上であること
		4-4-2	VPN ルータを 1 台用意し、当院が指定する場所に設置すること。下記相当の性能を有すること。 (1) 脅威保護スループットは 600Mbps 以上であること (2) ファイアウォールスループットは 5 Gbps 以上であること (3) ファイアウォール最大同時セッション数は 700,000 以上であること (4) IPSec VPN スループットは 4.4Gbps 以上であること。 (5) IPSec VPN トンネル数 (クライアント-ゲートウェイ間) は 250 以上であること
		4-4-3	4-4-1 の端末では、既存 C@RNA Connect が全て機能すること。
	4-5	検査待ちインフォメーションシステム (患者数表示・発番・印字機能)	
		4-5-1	RIS 受付時、受付番号を発番できること。
		4-5-2	RIS 受付時、受付番号と定型文を印字できること。また、印字レイアウトは導入時に指定できること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。

	4-5-3	プリンター（MUNBYN 社製 レシートプリンター ITPP068）又は同等品以上のものを1式用意し、当院が指定する場所に設置すること。また、当院指定の端末と接続すること。
	4-5-4	検査待ちの患者数を RIS から取得し数値で表示できること。
	4-5-5	患者数表示の文字色・表示色・レイアウトなどを導入時に指定できること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	4-5-6	専用端末の起動により、自動的に指定表示画面が専用モニターに投影されること。
	4-5-7	モニター（LG 社製 31.5inch 32UL500-W）又は同等品以上のものを1式用意し、当院が指定する場所に設置すること。モニターアームなどを使用し、任意の角度に調整できること。また、2-3-2(1)の端末1台と接続すること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
4-6	付帯工事、ネットワーク接続	
	院内情報システムとの接続	
	4-6-1	接続に際しては、必要十分の LAN 配線工事とネットワーク機器設置を併せて行うこと。既設ネットワークシステム設備と同等の機能、性能を確保するとともに、当院の医療情報システムへの影響が無いよう、接続にあたっては十分に留意すること。また、既設ネットワーク設備と一体的な保守ができるように、当院指定の接続業者と打合せを行い、工事すること。
	搬入・設置・撤去・据付・調製	
	4-6-2	設置については、納期、工程などのスケジュールを事前に当院と打合せを行い、そのスケジュールに従い完了すること。
	4-6-3	全体スケジュールを明確に示したスケジュール表を提出すること。
	4-6-4	既存 PACS と合わせて、本装置が正常に動作するように、点検、調整を行える体制を有すること。
	4-6-5	工事期間中も既存サーバーが通常運用できること。工事上やむを得ず、サーバーの通常運用不能な状況が発生する場合は、院内周知に十分時間を確保するため、工事開始前に当院へ報告すること。
	4-6-6	装置、物品の撤去、搬入、据付、配線、調整を行うこと。
	4-6-7	機器の搬入、据付、配線、配管、調整については、当院の診療業務に支障をきたさないよう当院担当者と事前協議し実施すること。
	4-6-8	機器位置など詳細については、当院担当者と打合せの上、決定、進行すること。
	4-6-9	機器の現場内設置から使用開始までの養生管理、又はそれに伴う保険などは納入業者側の負担で行うこと。
	4-6-10	作業中に発生した障害については、全て納入業者の責任において対応すること。なお、それに伴い発生する費用については納入業者側の負担で行うこと。
	廃棄	

	4-6-11	既存の装置・物品の撤去、搬出、廃棄などにかかる費用は納入業者負担とし、当院の指定する方法で行うこと。
	空調	
	4-6-12	既存空調設備のみで安定稼働不能である場合は、新たに空調設備を設けること。それに伴い発生する費用については、納入業者側の負担で行うこと。
	電源工事	
	4-6-13	現状設備の規格以外の場合は、供給者が対処し、装置用配電盤を病院の指定する場所に設置すること。なお、それに伴い発生する費用については納入業者側の負担で行うこと。
	震災対策工事	
	4-6-14	全ての備品に関し、振動、落下、転倒など防止対策の固定工事を施工すること。
	4-6-15	機器の転倒、移動を防止するための装備が施されていること。突然の停電、瞬断、電圧低下などに対する対処方法については、取扱説明書に明記すること。
	4-7	保守体制
	4-7-1	今回導入する全てのハードウェア、ソフトウェアについて正常に動作するように、点検、調整を行える体制を有すること。
	4-7-2	今回導入する全てのハードウェア、ソフトウェアについて故障時や当院が要請した場合には、24 時間、365 日対応が可能であり、かつ主要な交換部品は日本国内に有し、迅速な対応ができること。
	4-7-3	今回導入する全てのハードウェア、ソフトウェアについて運用を円滑に実現するために上記に加え、技術的サポートを行える体制を有すること。
	4-7-4	通信回線を利用して、リモートによるオンラインサポートが実施できること。
	4-7-5	今回の新規調達する全てのハードウェア、ソフトウェアについて納入後 1 年間は、通常の使用により故障した場合の無償保証に応じること。
	4-7-6	今回の新規調達する全てのハードウェア、ソフトウェアについて納入後 1 年間は、無償にてフルメンテナンス及び年 2 回以上の定期点検を行うこと。製品保証（周辺機器、付属品、備品を含む）を行うこと。
	4-7-7	月度ごとにサーバー稼働や障害対応に関するレポートを提出すること。
	4-7-8	リモート保守については、サーバー稼働状況を定期的にチェックし、障害を未然に防ぐ仕組みを提供すること。
	4-7-9	今回導入するシステムの稼働中に電気設備点検に伴う計画停電が実施される場合は、トラブル発生に対して速やかに対応するために技術担当者が立会い、システムの電源 OFF/ON 作業を行うこと。
	4-7-10	当院から半径 30 k m 圏内に 1 次サポート拠点があり、当院へサービス技術員を迅速に派遣できる体制を確保していること。
	4-8	その他

	4-8-1	RIS サーバー上に情報共有保管領域（RIS 共有フォルダなど）を確保し、指定の端末からアクセスできるように設定すること。また、情報共有保管領域は定期的にバックアップがとられていること。詳細については、当院担当者と別途協議すること。
	4-8-2	当院 1 階医事課に設置している既存画像入出力端末及びディスクパブリッシャーを地下 1 階画像診断部画像処理室へ移設し、接続すること。
	4-8-3	A 3 対応ラミネーター（フェローズジャパン社製 6 本ローラーラミネーター Venus 4 A 3）又は同等品以上のものを 1 式用意し、当院が指定する場所に設置すること。
	4-8-4	全ての操作においてパフォーマンスの低下が見られた場合には、処理能力を十分に補える追加の対策を講じること。なお、それに伴い発生する費用については納入業者側の負担で行うこと。
	4-8-5	配線、設置工事、装置及び周辺機器の撤去、建築・設備の改修工事、院内既存システムとの接続工事及び接続に関する全ての費用（ソフトウェア開発費なども含む）は本体価格に含むこと。
	4-8-6	周辺機器も含め、発注から納入までの間に装置の仕様変更やソフトウェアのバージョンアップがあった場合は、当院と協議の上、最新の仕様にて引き渡すこと。かつ納入後 1 年以内のソフトウェアのバージョンアップは、当院担当者と協議の上、無償で対応すること。
	4-8-7	全ての機器について、添付文書及び取扱説明書を日本語版で 2 部備えること。また、同内容の PDF データも備えること。
	4-8-8	取扱説明に関する教育は、当院担当者ととの協議により決定し実施すること。また、納入後の無償保証期間内において、当院担当者の変更などで新たに教育訓練が必要となった場合には対応すること。またその記録を残すこと。
	4-8-9	病院の個人情報に関する規定を遵守する目的から、機器類の販売元は個人情報保護法を遵守している仕組みを具体的に提示できること。
	4-8-10	納入した全ての物品リストを作成し、電子ファイルで用意すること。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
ネットワーク構成図

図1 ネットワーク構成図1
(Storage・Query/Retrieve等)

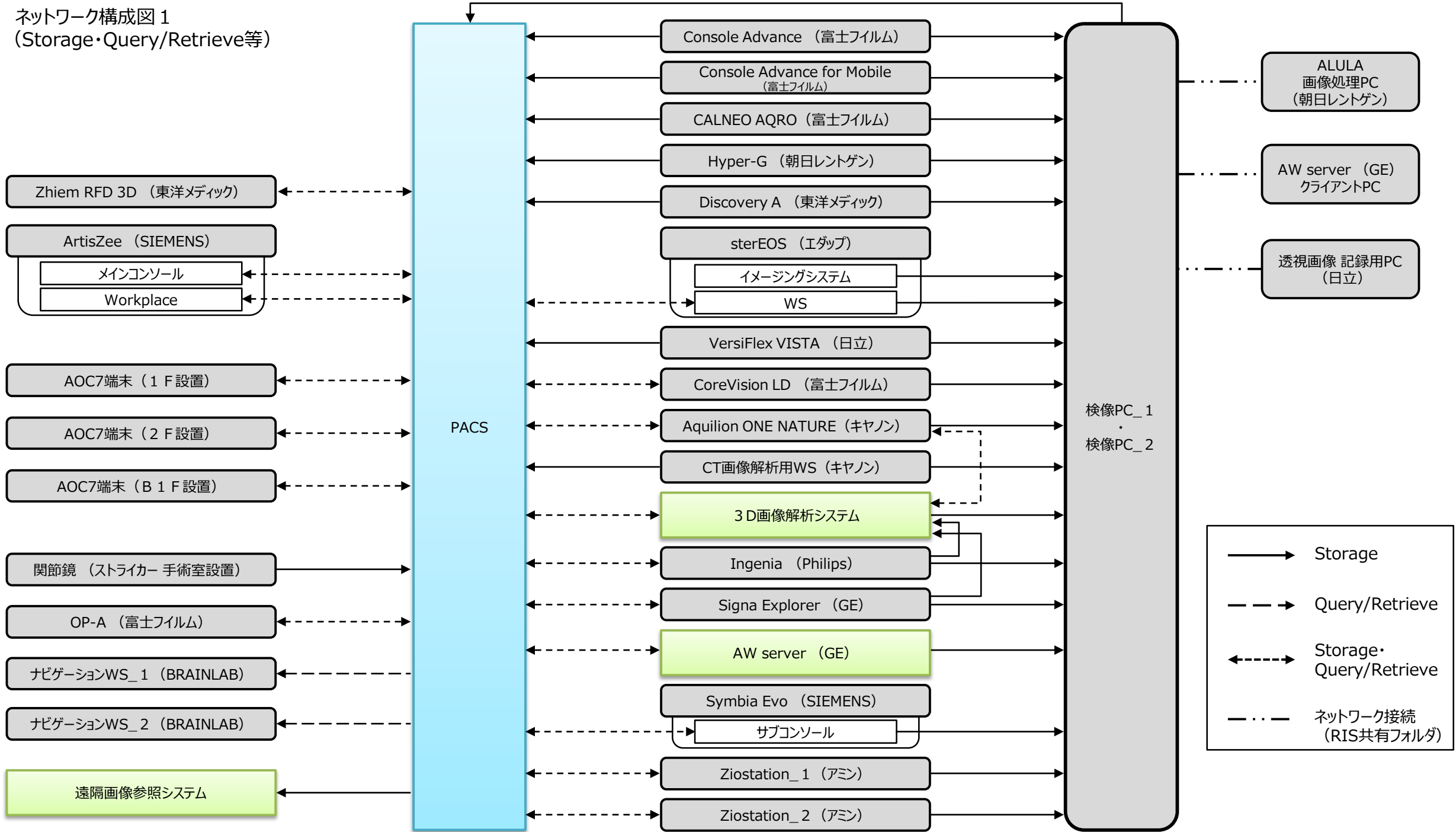
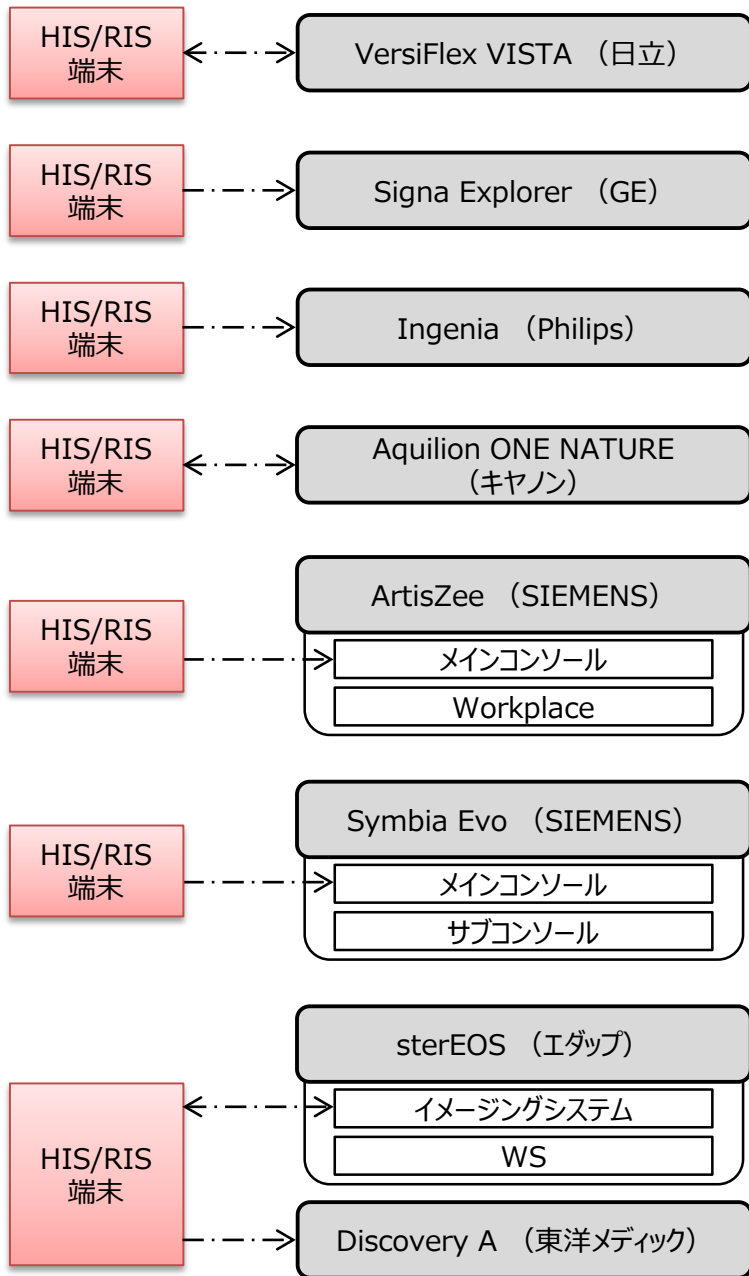
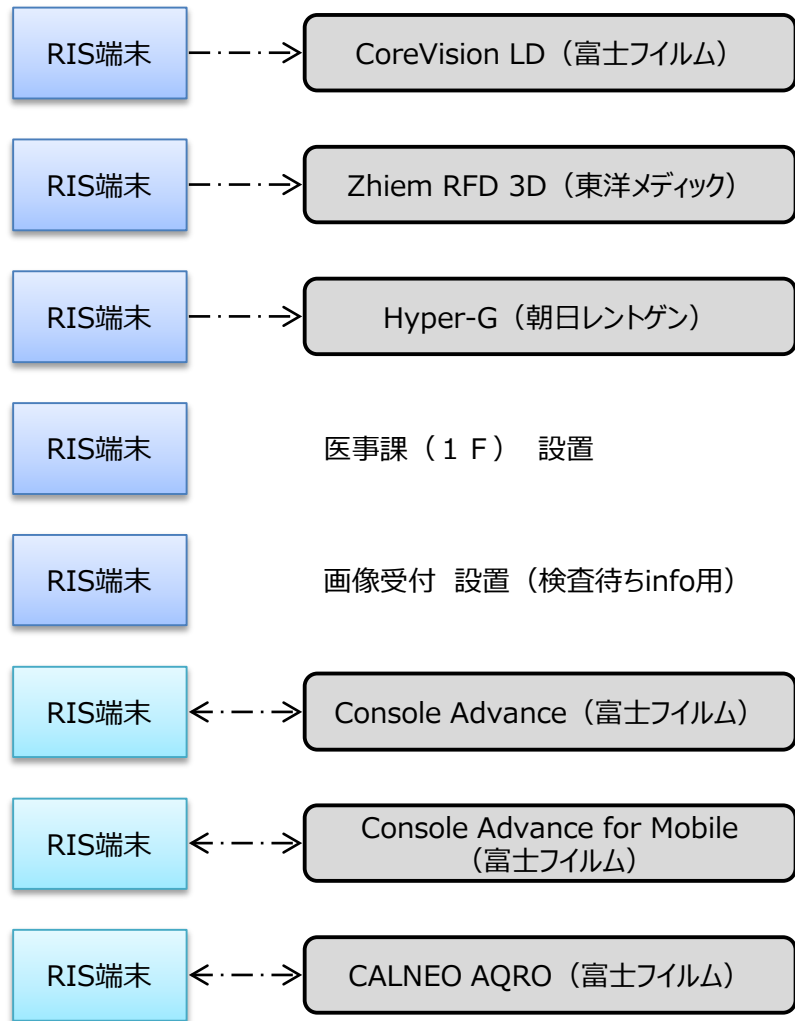


図2 ネットワーク構成図2
(MWN・MPPS・RISライセンス等)



RISライセンス数	24式
【内訳】	
新規RIS端末	5式
新規HIS/RIS端末	14式
新規読影端末/RIS	2式
既存画像処理ユニット	2式
既存移動型X線撮影装置	1式

